





ご注意

- □ 本書の適用は、本製品のみに限定されます。
- □ 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写、複製、改ざんすることは固くお断りします。
- □ 本書の内容については、予告なしに変更することがあります。最新の情報はお問い合わせください。
- □ 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不信な点や誤り、記載もれなど、お気づきの 点がありましたらご連絡ください。
- □ 運用した結果の影響については、上項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- □ 本製品がお客様により不適切に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエ プソン指定の者以外の第三者により修理・変更されたことなどに起因して生じた損害につきましては、責任を負 いかねますのでご了承ください。
- □ エプソン純製品およびエプソン品質認定品以外のオプションまたは消耗品を装着してトラブルが発生した場合に は、責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

EPSON[®]および ESC/POS は、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。

Microsoft, MS-DOS, WindowsおよびWindows NT は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

IBM, PC/AT, PS/2 は米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



版名	ページ	変更項目と内容						
Rev. A		新規制定						
Rev. B	1-2	DM-M510、DM-A310削除						
	1章; 2-9,13,17; 6-5	UB-I03 削除						
	4章	DM-S160-001 削除						
	1章;2章;3章	SASPORT cubieIII、SASPORT MR 追加						
	1章;4章	DM-S160-011、DM-S162 追加						
Rev. C	3-45,62	キーボード仕様見直し						
	4-22	DM-S162 仕様追加						
	5-5	キャッシュドロワ仕様変更(誤記訂正)						
Rev.E	3-1,2; 4-1,2; 5-1; 6-1	安全の表記を見直し						
	3-66	キーボード DM-K090 追加						
	1-1,2;4章	DM-S160-012/031, DM-S161-012 追加						
	4-10,18,27	バーコードスキャナ トラブルシューティング追加						
	5-4	キャッシュドロワ操作方法追加						
Rev.E	1-1; 4-3,20,21,26	DM-S162-062 追加						
	3-3	DM-K840-101 追加						
	3-55,64	DM-K128 のコード 定義の注記を追加。						

この取扱説明書について

取扱説明書の目的

この取扱説明書は、プログラムの開発やシステムの設置を行う人に、SASPORT シリーズ周辺 機器に関して情報を提供するため作成されました。

取扱説明書の内容

各章の記述されている概要は以下のとおりです。この節の最後に目次があります。詳しい情報 とページ番号に関しては、そちらを参照してください。

第1章「はじめに」	本取扱説明書の概要および本取扱説明書で扱う 製品と SASPORT との接続可否について、記述 しています。
第2章「SASPORTとは」	SASPORT の概念および各機種の紹介、接続す る際の設定について記述しています。
第3章「キーボード」	SASPORT 用キーボードに関する情報について 記述しています。
第4章「バーコードスキャナ」	SASPORT 用バーコードスキャナに関する情報 について記述しています。
第5章「キャッシュドロア」	SASPORT 用キャッシュドロアに関する情報に ついて記述しています。
第6章「ケーブル」	SASPORT 用周辺機器を接続する際に必要な ケーブルについて記述しています。

関連するマニュアル

関連するマニュアル

マニュアル名称	内容
ユーザーズマニュアル	各 SASPORT 本体や周辺機器の取り扱いについて説明しており、扱われるすべての人向けのマニュアルです。これは製品に同梱されています。
詳細取扱説明書	各 SASPORT のプログラム開発や本体の設置を行う人向けの取扱説明書 です。SASPORT ARCX、SASPORT cubieIII、SASPORT cubieII、 SASPORT URBAN、SASPORT MR 用が用意されています。
サービスマニュアル	各 SASPORT の保守と修理を行う人向けの修理・保守用マニュアルです。

記号の意味

本書では以下の記号が使われています。それぞれの記号の意味をよく理解してから製品を取り扱ってください。

⚠ 警告:

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定され る内容を示しています。

⚠ 注意:

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、次のような被害が想定される内容を示しています。

●人が傷害を負う可能性

●物的損害を起こす可能性

●データなどの情報損失を起こす可能性

◎ 注記:

製品の性能を維持するための必要な制限事項、および本製品の取り扱いについて有効な情報を 示してます。

■操作手順-

操作手順に番号を付けて記載しています。

操作手順中の表記について

[Y]、[Enter] : []で囲んだ文字は、キーボード上のキーを表します。

- [Ctrl] + [C] : + の前のキーを押したまま、+ の後のキーを押します。この例では、[Ctrl] キーを押したまま [C] キーを押します。
- DIR□C : 太字はキーボードから入力する文字を表します。「□」はスペースを表します。 "" : ""で囲んだ文字は、画面上に表示されるメッセージを表します。

安全上の警告・注意

- 煙が出たり、変なにおいや音がするなど異常が発生した場合は、すぐにシステムとの接続 ケーブルを抜くか、システムの電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。 そのまま使い続けると、火災、感電の恐れがあります。販売店またはサービス窓口にご相談ください。
- 改造または本書で指示されている以外の分解はしないでください。 けがや火災・感電の恐れがあります。

- □ 感電の危険を避けるため、雷が発生している間は、製品の設置およびケーブル類の取り付け作業をおこなわないでください。
- 必ず指定されている電源をお使いください。 他の電源を使うと、火災・感電の恐れがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
 感電の恐れがあります。
- 製品の内部に異物を入れたり、落としたりしないでください。 火災・感電の恐れがあります。
- 万一、水などの液体が内部に入った場合は、すぐにシステムとの接続ケーブルを抜くか、 システムの電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。 そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
- 万が一のとき、すぐに電源ケーブルをコンセントから抜けるように、コンセントには簡単
 にアクセスできるようにしておいてください。
- 電源ケーブルのたこ足配線はしないでください。 火災の恐れがあります。
- **電源ケーブルの取り扱いには注意してください。** 誤った取り扱いをすると火災・感電の恐れがあります。
 - ・電源ケーブルを加工しない。
 - ・電源ケーブルに重いものを載せない。
 - ・無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
 - ・熱器具の近くに配線しない。
 - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
 - ・キズや破損した電源ケーブルは使用しない。

⚠ 注意:

- □ 製品には本書で指示した以外の機器を接続しないでください。故障・火災等を起こす場合 があります。
- 電圧変動や電気的ノイズを発生する装置の近くから AC 電源を取らないでください。特に大きなモーターを使用する装置から離してください。
 POS システムが誤動作する可能性があります。
- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする恐れがあります。
- □ 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。故障や火災・感電の恐れがあります。

- □ 製品の上に乗ったり、重いものを置かないでください。倒れたり、こわれたりしてけがを する恐れがあります。
- 引火性のもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)が大気中に存在する場所で使用しないでください。
 爆発や火災の原因になります。
- □ 製品を落としたり、ぶつけたり、激しく揺らしたり、衝撃を加えたりしないでください。 製品が損傷する恐れがあります。
- □ 製品を長期間ご使用にならないときは、安全のためシステムや電源から取り外してください。
- □ 回路基板の素子は、熱くなっている可能性があります。電源をオフしてから約 10 分間待ってから取り扱ってください。

目次

改訂履歴 記号の意味 安全上の警告・注意 	
第1章 はじめに	
概要	.] .] .2
第2章 SASPORT	
SASPORTとは	.]
SASPORTの構成-SASPORT cubielll	·2
概要	-2
仕様	-2
構成例	.3
周辺機器の接続可含	-4
局辺懐奋との接続	·4 0
概要	-8
(//关)	-8
構成例	.9
周辺機器の接続可否	10
周辺機器との接続	10
SASPORT の構成 – SASPORT MR	12
概要	12
住禄	12
	دו· ۱۸
周辺()協の)接続可省	.14 .17
SASPORTの構成 – SASPORT cubiell 2-	-16
概要	-16
仕様	-16
構成例	17
周辺機器の接続可否	18
周辺機器との接続	.18
SASPORIの構成 – SASPORI cubie	·22
	·22
11 惊	·22
	·23 -2Δ
周辺機器との接続	-24
	- •
<i>╄ゝ₽</i> ┼─╥─∧	
使用環境上の注意 	·]

取り扱い上の注意	. 3-1
操作上の注意	. 3-2
キーボードの概要説明	. 3-3
POS キーボード	. 3-3
JIS キーボード	. 3-3
キーボードとマウスの接続	. 3-4

DM-K840/DM-K845		ō
概要		ō
機能		ō
梱包内容		ō
各部の名称		7
キーボードの接続		3
キーボードのプログラミング		10
プログラミングの前に		10
定義可能キー一覧		12
ユーティリティープログラムの起動と終了		13
画面 • ファンクションキー説明		14
基本的なプログラミング基本的なプログラミング		19
過去に保存したキーコードを使って複数のキーボードをプログラムする	5	22
デフォルトのキーコードテーブルをキーボードにプログラムする		24
キーボードをクリアする		26
キーボードのキーコードを変更する		<u>2</u> 9
過去に保存したキーコードを利用して新しくプログラムする		30
デフォルトのキーコードテーフルを利用して新しくプログラムする		30
ーつのキーに Shift,Cfrl,Alt との組み合わせキーをプログラムする		31
キーフザーを設定する		33
ティレイタイムを設定する		35
磁気ストライフリータのハラメータを設定する		3/
DM-K84U/DM-K845 をナストする		40
キートッノ・フヘルの変更		42
キートッフカハーの取り付け		42
イートツノルハーの取り外し	د	4Z 42
イートウノの変更	د	40 45
1上1家		40 74
10 録		40 16
ーー前内の扱	3-4	40 47
概要		47
として、1995年1995年1995年1995年1995年1995年1995年1995		۸7
烟匀内容	3-4	47 47
各部の名称	3-4	<u>1</u> 9
キーボードの接続	3-5	50
キーボードのプログラミング	3-5	51
プログラミングの前に		51
ユーティリティープログラムの起動と終了		52
基本的なプログラミング		54
過去に保存したキーコードを使って複数のキーボードをプログラミング	ブする3-5	57
過去に保存したキーコードを利用して新しくプログラムする	3-5	58
プログラムした内容を確認するには		58
キートップ・ラベルの変更		59
キートップの変更		59
キーネームラベルの取り付け		51
DM-K128 の使い方		52
仕様		52
付録		53
DM-K128 キーコードテーブル		53
キー割付け表		54

第4章 バーコードスキャナ

ご使用	:の注意	1
取り扱	、上の注意	1
操作上)注意	1
バーコ	-ドスキャナの概要説明	2
1	-コードスキャナの種類	2
С	M ポートへの +5V 供給	2
DM-S	D-011/031	3
根	<u>-</u>	3
枢	1内容	3
~ ~ ~	20名称	3
D	-S160-011/031の接続	4
D	-S160-011/031の設定	4
R	232Cの設定	5
7		7
D	-S160-011/031の使い方	7
- ط	4-{	B
<u>.</u> ר	/タフェース什様 4-6	8
•	テレー	2
DM-S	1	, 10
根	ē4-	10
朷		10
~ 名		10
D	-S161の接続	11
D	-S161 の設定	11
Р	AT 用キーボードインターフェイス	12
そ)他の機能	14
D	-S161の使い方	15
台	₹	16
٢	·ブルシューティング	17
DM-S	2	19
根	ē4-	19
枢]内容	19
名	3の名称	19
D	-S162 の接続	20
D	-S162 の設定	22
1	-コード読み取り条件の設定	23
そ)他の設定	24
D	-S162の使い方	25
日	ŧ	25
<i>第5 </i>	キャッシュドロア	
キャッ	バードロアを安全にお使いいただくために	1
DM-Z	D/DM-Z460	2
根	5-2	2
机	!内容5	2
5	-ブルの接続5	3
何	方法	3
4	-のポジション	3
+	-の操作	3
, ج	:出しをソフトウェアで開ける	4
弓	出しを閉める	4
۔ ط	ξ	5
弓	·出し寸法 ····································	5

第6	章	ケー	ブル																				
取り	扱い	上の	注意	 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-1						
DM-	A10	0		 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	 	 	 	 	 	 • • •	. (6-2
	概要			 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-2						
	ケー	·ブル	の接続		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-2						
	ケー	·ブル	の結線		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. /	6-3						
DM	A40	0		 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-4						
	概要			 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-4						
	ケー	·ブル	の接続		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. /	6-4						
	ケー	·ブル	の結線		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. /	6-4						
OI-C	201			 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-5						
	概要			 	 	 	 	 		 	 	 	 		 	. /	6-5						
	ケー	・ブル	の接続		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. (6-5						
	ケー	ブル	の結線		 	 	 	 		 	 	 	 		 	. /	6-5						

第1章 はじめに

概要

本書は、SASPORT シリーズの周辺機器を開発者に正しく使用していただくためにまとめた詳細取扱 説明書です。

下記に記載した周辺機器についての設定方法、および接続方法について説明します。 DM-KX060 については「SASPORT ARCX 詳細取扱説明書」、DM-K840-101 については「DM-K840-101 詳細取扱説明書」を参照ください。 これ以外の機器につきましては各機器のマニュアルを参照ください。

本書で扱う製品一覧

機器分類	機器名称	MODEL 名	機器の説明
POS キーボード	DM-K840	KB950J-xx	84 キー POS キーボード
	DM-K845	KB953J-xx	磁気カードリーダー付き 84 キー POS キーボード
	DM-K128	KB128	128 キー POS キーボード DM-K090 JIS キーボード
バーコード スキャナ	DM-S160-011	ZE-84RMFME	ハンディタイプ CCD バーコードスキャナ I/F 仕様:RS-232C
	DM-S160-012	ZE-84RMFPE	ハンディタイプ CCD バーコードスキャナ I/F 仕様 : RS-232C
	DM-S160-031	ZE-84RMFPE1	ハンディタイプ CCD バーコードスキャナ I/F 仕様 : RS-232C
	DM-S161-011	ZE-845MYMCC2	ハンディタイプ CCD バーコードスキャナ I/F 仕様 : キーボード
	DM-S161-012	ZE-845MYP	ハンディタイプ CCD バーコードスキャナ I/F 仕様:キーボード
	DM-S162-061	OPL-6735	ハンディタイプ レーザースキャナ I/F 仕様:USB
	DM-S162-062	OPL-5850	ハンディタイプ レーザースキャナ I/F 仕様:USB
ドロワ	DM-Z400		4 札 6 硬貨キャッシュドロワ
	DM-Z460		4 札 6 硬貨キャッシュドロワ
キーボード I/F 分岐ケーブル	DM-A100		マウスとキーボードの分岐ケーブル キーボードとマウスを使用する時、およ びマウスを使用する時に必要なケーブル です。
キーボード I/F 変換ケーブル	DM-A400	JGK- ¢2C	MIN DIN → DIN 変換ケーブル プログラマブルキーボード(以下、POS キーボードとします。)に JIS キーボード を接続する時に必要なケーブルです。

機器分類	機器名称	MODEL 名	機器の説明
SASPORT-TM 接続ケーブル	OI-C01		SASPORT シリーズと RS-232 I/F 仕様の TM を接続する時に必要なケーブルです。

上記の内容は2005年10月現在のものについて記載してあります。

弊社又は製造元の都合により変更になる場合がありますので、最新情報につきましては販売元に問 い合わせてください。

SASPORTと周辺機器の接続可否

SASPORT と周辺機器の接続可否は以下の通りです。その他の機種については、SASPORT の詳細取 扱説明書、または各製品のマニュアルをご覧ください。

機器分類	機器名称	SASPORT ARCX	SASPORT cubieIII	SASPORT URBAN	SASPORT MR	SASPORT cubiell		
ディスプレイ	_	0	O (*1)	O (*11)	- (*5)	O (*1)		
POS キーボード	DM-K840	—	0	0	0	0		
	DM-K845	—	0	0	0	0		
	DM-K128	—	0	0	0	0		
JIS キーボード	DM-K090	0	0	0	0	0		
バーコード	DM-S160	0	0	0	0	0		
スキャナ	DM-S161	—	0	0	0	0		
	DM-S162(*10)	0	0	0	0	0		
バーコードスキャ ナ用置き台	DM-S16A	0	0	0	0	0		
キャッシュドロワ	DM-Z400	0	O (*6)	O (*3)	- (*7)	O (*6)		
	DM-Z460	—	O (*6)	O (*3)	- (*7)	O (*6)		
マウス	DM-A200	0	O (*9)	O (*9)	0	O (*9)		
キーボード I/F 分岐ケーブル	DM-A100	- (*8)	0	0	— (*8)	0		
キーボード I/F 変換ケーブル	DM-A400	_	0	0	0	0		
SASPORT-TM 接続ケーブル	OI-C01	_	O (*4)	0	0	O (*4)		

*1 : タッチパネル付き LCD が用意されていますが、別途に接続することが出来ます。マルチ ディスプレイには対応していません。

- *2 :別に専用オプションが用意されています。
- *3 :ドロワボードまたは外部接続する TM を経由して接続可能。
- *4 : 専用 TM プリンタが用意されています。
- *5 : 専用タッチパネル付 LCD (DM-M820) が用意されています。
- *6 : 専用 TM プリンタ(TM-T88IIR など)を搭載している時に使用できます。
- *7 : 外部接続の EPSON TM プリンタに接続できます。
- *8 :マウスコネクタがあります。
- *9 : 別途にキーボード I/F 分岐ケーブル (DM-A100) が必要になります。
- *10 : Windows 2000 Professional モデルは使用できますが、Windows NT モデルでは使用できません。
- *11 : タッチパネル付き LCD が付いていますが、ドロワボードを経由して接続可能です。

第2章 SASPORT

SASPORT とは

SASPORT は、「Retail Client PC」コンセプトによる POS を中心とした業務用 PC です。

さまざまな POS 用周辺機器やパソコン用周辺機器を接続し、自由度の高い POS システムを構築しま す。また OLE-POS 対応により、アプリケーションの開発も容易にでき、これまでの POS 専用機で は十分に満足できなかったエンドユーザーニーズにも細やかに応えることができます。さらに、最 先端の PC アーキテクチャの採用によりさまざまな PC の周辺機器を活用できるので、単なる POS 端 末としてだけでなく、より幅広い業務に活用ができます。

SASPORT は、従来にない新しい店舗システムの実現に大きく貢献する POS ハードウエアです。

□ Retail Client (リテール: クライアント) PC とは

「Retail Client PC」は、最先端の PC アーキテクチャをベースに POS 用周辺機器を利用するための専 用機能を追加した、高機能業務用 PC です。エプソンの最先端技術により、通常の PC にはない様々 な機能を組み合わせ、1 つのハードウエアにコンパクトにまとめました。



SASPORT の構成- SASPORT cubieIII

■ 概要

SASPORT cubieIII はタッチパネル搭載のパソコン POS です。Celeron1.2GHz の高速 CPU、128MB(最大 512MB)のメモリ、大容量 20GB 以上のハードディスクを標準装備し、複雑なプログラムもスムーズに実行可能です。また、OS には信頼性の高いシステムを構築できる Windows 2000 Professional を採用。ネットワーク接続はもちろん、さまざまなシステム構築にフレキシブルに対応できます。



■仕様

項目	SASPORT cubieIII							
CPU	Intel Celeron プロセッサ 1.2GHz							
メインメモリ	128MB(最	:大 512MB)						
OS	Windows 200	0 Professional						
HDD	2.5 型 E-IDE 20GB	以上 1台増設可能						
オペレータ ディスプレイ	12.1 型 TFT タッチパネル付 XGA または SVGA	10.4 型 TFT タッチパネル付 SVGA						
インターフェース	パラレル× 1、RS-232C × 6(*1)、USB(1.1) × 2、Display × 1 KB/MOUSE × 1、100Base-TX/10Base-T × 1、専用 KB/MSR × 1 カスタマディスプレイ× 1、キャッシュドロワ× 1							
拡張スロット	PCI(Ver. コンパクトフラッ	2.2) × 2 シュカード× 1(*2)						
外形寸法	リアカバー含む:252mm(W) × 457mm(D) × 261mm(H) リアカバー除く:252mm(W) × 386mm(D) × 261mm(H) (タッチパネル部は除く)							
重量	本体:約	匀 10.8kg						
EMI 規格	EMI 規格 VCCI class A							

(*1) 2 ポートは、専用 TM プリンタ / カスタマディスプレイ、タッチパネルに使用。

(*2) コンパクトフラッシュカードは、PCI スロットに接続する PC カードアダプタ (OI-B10) を接続し、CF-PC カード変換アダプタを使用することにより使用可能です。

■ 構成例



□ 標準構成

種類	周辺機器	
タッチパネル付き LCD	DM-LR121XG/LR121SV/DM-LR104T-252/253	
POS プリンタ	TM-T88IIIR 58mm 幅 /80mm 幅	
カスタマディスプレイ	DM-D110/D500	
POS キーボード(小)	DM-KR028	
磁気ストライプリーダ	DM-MR112	
ドロワ	DM-Z400	
バーコードスキャナ	DM-S160-012/031	

(*) LCD ユニットは、12.1 インチ XGA モデル、12.1 インチ SVGA モデル、10.4 インチ SVGA モデ ルなどを用意しています。

■ 周辺機器の接続可否

SASPORT cubieIII とエプソンの周辺機器の接続可否については、第1章「はじめに」-「SASPORT と周辺機器の接続可否」をご覧ください。

■ 周辺機器との接続

SASPORT cubieIII と周辺機器を接続する場合は、以下の項目を参照してください。

ロ TM プリンタの接続

TM プリンタの末尾に「R」が付くプリンタは専用 TM プリンタです。SASPORT cubieIII に搭載して 使用することができます。

オプションのプリンタトレイ (OI-R01) を使用して、SASPORT cubieIII に載せることができる TM プリンタも用意されています。詳しくは購入元にお問い合わせください。

専用 TM プリンタ以外の TM プリンタを接続する場合は、SASPORT-TM 接続ケーブル (OI-C01) が必要になります。詳細は、TM プリンタのユーザーズマニュアル、および「SASPORT cubieIII 詳細取扱説明書」をご覧ください。

□ カスタマディスプレイの接続

SASPORT cubieIII 背面の「DM」ディスプレイコネクタに接続します。詳細はカスタマディスプレイのユーザーズマニュアル、および「SASPORT cubieIII 詳細取扱説明書」をご覧ください。

DM コネクタに電話線を接続すると、故障の原因になりますので絶対に接続しないでくだ さい。

□ モニタの接続

SASPORT cubieIIIの Display コネクタに接続してください。 ACアウトレットは、システムの電源オン/オフに連動します。

□ POS キーボードの接続

POS キーボードを使用するためにはキーの設定(キーの割付け)が必要となります。キー設定をするために、プログラミング用として JIS キーボード (DM-K090)が必要です。また、DM-K840/K845 または DM-K128 には POS/JIS キーボード接続用として変換ケーブル (DM-A400)が必要です。専用オプションとして、28 キー POS キーボード (DM-KR028)が用意されています。

□ バーコードスキャナ (DM-S160)

RS-232 インターフェースのバーコードスキャナ (DM-S160) を接続する場合は、+5V を供給するため に、SASPORT cubieIII 内部のジャンパ設定を変更する必要があります。

また、COM5、COM6 はデフォルトでは使用できません。使用する場合は、次項「COM5、COM6 の 設定手順」項を参照し、BIOS 設定を変更してください。

メインボード上のジャンパ (J7-J18) にて COM1,COM2,COM5,COM6 ポートのピン1 へ供給する電源 を設定します。バーコードスキャナを接続した COM ポートのジャンパを、以下の通りに設定して ください。

		ピン1への出力	
ポート番号	ジャンパ	DCD 信号	+5V 電源
		(デフォルト)	(バーコードスキャナ を接続する場合)
COM1	J7	Short	Open
	J8	Open	Short
	J9	Open	Open
COM2	J10	Short	Open
	J11	Open	Short
	J12	Open	Open
COM5	J13	Short	Open
	J14	Open	Short
	J15	Open	Open
COM6	J16	Short	Open
	J17	Open	Short
	J18	Open	Open

ジャンパ (J7-18) の同一 COM ポート上に2 つ以上のジャンパーキャップを取り付けない でください。SASPORT cubieIII の回路基板の IC を破損する可能性があります。 COM ポート1(J7 ~9)、COM ポート2(J10 ~12)、COM ポート3(J13 ~15)、COM ポート4(J16 ~18) に、それぞれ1 つだけジャンパーキャップを取り付けてください。

□ COM5、COM6の設定手順

COM5、COM6 はデフォルトでは使用できません。使用するためには、BIOS 設定を変更する必要があります。BIOS 設定を変更する場合は、以下の手順で行います。

🏾 注記:

BIOS 設定を行う場合は、必ずキーボードを接続してください。タッチパネルからは操作できません。。

- **1** SASPORT cubielll にキーボードを接続し、電源をオンにします。POST 処理中に DEL キー を押すと、BIOS セットアップユーティリティが起動します。
- **2** メインメニューから「Integrated Peripherals」を選択し、Enter キーを押します。

3「Integrated Peripherals」メニューから、「Onboard Serial Port 5」および「Onboard Serial Port 6」を選択し、I/O アドレスと「Serial Port 5 Use IRQ」と「Serial Port 6 Use IRQ」を設定します。

② 注記:

I/O アドレスと IRQ 番号は、他のポートと衝突しないよう、使っていないポート(パラレルポート等)を Disabled にし、その空いた I/O アドレスと IRQ 番号を使用してください。

4 [ESC] キーを押してメインメニューに戻り、「Save & Exit Setup」を選択し、Enter キーを 押します。確認ダイアログが表示され、"Y" と入力し、Enter キーを押します。

5 システムが起動し、COM5、COM6 が使用可能になります。

□ バーコードスキャナ (DM-S161)

キーボードインターフェースのバーコードスキャナ (DM-S161) を接続する場合は、次の手順に従って接続してください。

- 7 スキャナ (DM-S161)のミニ DIN オス側を SASPORT cubieIII のキーボードコネクタに接続 します。
- **2** スキャナ (DM-S161) のミニ DIN メス側にキーボードのコネクタを接続します。

□ キャッシュドロワの接続

専用 TM プリンタが接続されている場合は、SASPORT cubieIII 背面の「DKD」と刻印されたポート に接続します。専用 TM プリンタが接続されていない場合は、TM プリンタを接続して、TM プリン タ背面の「DK」と刻印されたポートに接続します。詳細は、「SASPORT cubieIII 詳細取扱説明書」を ご覧ください。

🖄 注記:

専用TM プリンタを搭載していない場合、SASPORT cubieIII 背面の「DKD」ポートにキャッシュドロワを接続しても、使用できません。

□ マウスの接続

分岐コネクタ DM-A100 を使用することにより、マウスも同時に使用することができます。

分岐コネクタにマウス、POS キーボード (JIS キーボード)を接続するときは、「K」と刻印された端 子にマウスを、「M」と刻印された端子にキーボードを接続してください。

□ 磁気ストライプリーダ

専用オプション (DM-MR112) が用意されています。

SASPORT の構成- SASPORT URBAN

■ 概要

SASPORT URBAN はタッチパネル搭載のパソコン POS です。店舗インテリアにマッチする美しいデ ザインを追求するとともに、コンパクトサイズを実現。また、本体の高さを低くしたことで、カウ ンター内にいてもお客様の顔を見ながら操作できます。ボディカラーは、店舗の雰囲気に合わせて クールホワイトとダークグレイの2タイプからお選びいただけます。



■ 仕様

項目	SASPORT URBAN	
CPU	Intel Celeron プロセッサ 733MHz	
メインメモリ	128MB(最大 512MB)	
OS	Windows 2000 Professional / Windows NT Workstation 4.0	
HDD	2.5 型 10GB 以上	
インターフェース	パラレル×1、RS-232C×3、USB×2(*3)、CRT(オプション*1) KB/MOUSE×1、Ethernet×1、専用 MSR×1 カスタマディスプレイ×1、キャッシュドロワ×2(オプション*1) 専用フロッピーディスク×1(オプション)	
拡張スロット	PCI × 1 コンパクトフラッシュカード× 1(オプション *2)	
外形寸法	303mm(W) × 306mm(D) × 278mm(H)	
重量	本体:約 8.4kg	
EMI 規格	VCCI class A	

(*1) ドロワ &CRT ボード (OI-B08) 使用。

(*2) CD-ROM の代わりに取り付け可能。

(*3) Windows 2000 Professional モデルのみ使用可能。

■ 構成例



□ 標準構成

種類	周辺機器	
タッチパネル付き LCD	DM-LS121T(標準装備)	
POS プリンタ	TM-T88II	
カスタマディスプレイ	DM-D110	
POS キーボード	DM-K840/K128	
磁気ストライプリーダ	DM-MS112	
ドロワ	DM-Z400	
バーコードスキャナ	DM-S160-012/031	

■ 周辺機器の接続可否

SASPORT URBAN とエプソンの周辺機器の接続可否については、第1章「はじめに」-「SASPORT と周辺機器の接続可否」をご覧ください。

■ 周辺機器との接続

SASPORT URBAN と周辺機器を接続する場合は、以下の項目を参照してください。

□ TM プリンタの接続

TM プリンタを接続する場合は、SASPORT-TM 接続ケーブル (OI-C01) が必要になります。詳細は、 TM プリンタのユーザーズマニュアルをご覧ください。

□ カスタマディスプレイの接続

SASPORT URBAN 背面の「DM」ディスプレイコネクタに接続します。詳細はカスタマディスプレ イのユーザーズマニュアル、「SASPORT URBAN 詳細取扱説明書」および「SASPORT URBAN 開発 者ガイド」をご覧ください。

⚠ 注意

DM コネクタに電話線を接続すると、故障の原因になりますので絶対に接続しないでくだ さい。

□ モニタの接続

オプションのドロワカード (OI-B08) を接続し、CRT コネクタに接続してください。 SASPORT URBAN にはサービスコンセントが付いていません。

□ POS キーボードの接続

POS キーボードを使用するためにはキーの設定(キーの割付け)が必要となります。キー設定をするために、プログラミング用として JIS キーボード (DM-K090)が必要です。また、DM-K840/K845/ K128 には POS/JIS キーボード接続用として変換ケーブル (DM-A400)が必要です。

□ バーコードスキャナ (DM-S160)

RS-232 インターフェースのバーコードスキャナ (DM-S160) を接続する場合は、+5V を供給するため に、SASPORT URBAN の BIOS 設定を変更する必要があります。COM1、COM2 のみ +5V を供給す ることができます。COM3 には供給できません。

DM-S500 を接続する場合は、RS-232C インタフェースに電源を供給しないでください。

BIOS の INTEGRATED PERIPHERALS - Serial Port 1/2 Outlet 5V の設定を、Enable に設定します。 詳細は、「SASPORT URBAN 詳細取扱説明書」をご覧ください。

□ バーコードスキャナ (DM-S161)

キーボードインターフェースのバーコードスキャナ (DM-S161) を接続する場合は、次の手順に従って接続してください。

- **1** スキャナ (DM-S161) のミニ DIN オス側を SASPORT URBAN のキーボードコネクタに接続します。
- 2 スキャナ (DM-S161) のミニ DIN メス側にキーボードのコネクタを接続します。

□ キャッシュドロワの接続

TM プリンタ背面の「DK」と刻印されたポートに接続します。 オプションのドロワカード (OI-B08) を接続して、「ドロワーキック」コネクタに接続すると、キャッ シュドロワを2 台制御できます。

□ マウスの接続

分岐コネクタ DM-A100 を使用することにより、マウスも同時に使用することができます。

② 注記:

分岐コネクタにマウス、POSキーボード (JIS キーボード)を接続するときは、「K」と刻印された端 子にマウスを、「M」と刻印された端子にキーボードを接続してください。

□ 磁気ストライプリーダ

専用オプション (DM-MS112) が用意されています。

SASPORT の構成- SASPORT MR

■ 概要

SASPORT MR は本体 (IM-800) とタッチパネル付 LCD ディスプレイ (DM-M820) を分割したモジュー ル設計のパソコン POS です。カウンターの上にはディスプレイ、カウンターの下には本体・周辺機 器を設置するなど、自由度の高い設置が可能です。狭いスペースでも有効に使うことができ、スッ キリとしたカウンターを実現できます。高信頼のネットワーク OS である Windows 2000 Professional を採用し、CPU には Celeron 733MHz の高速プロセッサ、128MB(最大 512MB) メモリ、40GB 以上 のハードディスクを搭載。パワフルかつ安定した動作環境を提供します。



■仕様

項目	SASPORT MR	
CPU	Celeron プロセッサ 733MHz	
メインメモリ	128MB(最大 512MB)	
OS	Windows 2000 Professional	
HDD	3.5 型 40GB 以上	
インターフェース	パラレル× 1、RS-232C × 4 *1、USB(1.1) × 4、Display × 1 キーボード× 1、マウス 1、Ethernet × 1、	
拡張スロット	PCI(Ver.2.2) × 1	
外形寸法	315mm(W) × 365mm(D)*2 × 88mm(H)	
重量	本体:約 6.7kg	
EMI 規格	VCCI class A	

(*1) 1 つはタッチパネルで使用

(*2) リアカバーを付けた状態

■ 構成例



□ 標準構成

種類	周辺機器	
タッチパネル付き LCD	DM-M820(標準装備)	
POS プリンタ	TM-T88II	
カスタマディスプレイ	DM-D110	
POS キーボード	DM-K840/K845	
ドロワ	DM-Z400	
バーコードスキャナ	DM-S160-012/031	

■ 周辺機器の接続可否

SASPORT MR とエプソンの周辺機器の接続可否については、第1章「はじめに」-「SASPORT と 周辺機器の接続可否」をご覧ください。

■ 周辺機器との接続

SASPORT MR と周辺機器を接続する場合は、以下の項目を参照してください。

ロ タッチパネル付 LCD(DM-M820)の接続

電源は IM-800 の DCout 12V から供給されます。Display 用コネクタは Display、タッチパネル用コネ クタは COM1 または COM2 に接続してください。詳しくは「SASPORT MR 詳細取扱説明書」また は「DM-M820」ユーザーズマニュアルをご覧ください。

□ シリアルポートを使用する場合

COM3 および COM4 を使用する場合は、ハードディスクの Backup フォルダからシリアルポートド ライバをインストールする必要があります。 COM3 および COM4 には +5V または +12V を出力することが出来ます。詳しくは「SASPORT MR 詳 細取扱説明書」をご覧ください。

TM プリンタ、およびカスタマディスプレイの接続

TM プリンタおよびカスタマディスプレイの接続方法は、幾つかの種類があります。詳しくは TM プリンタの「詳細取扱説明書」または弊社までお問い合わせください。 TM プリンタには専用電源と AC ケーブルが必要になります。 カスタマディスプレイには、各機種専用スタンド、専用電源、AC ケーブルが必要になります。

□ POS キーボードの接続

POS キーボードを使用するためにはキーの設定(キーの割付け)が必要となります。キー設定をするために、プログラミング用として JIS キーボード (DM-K090)が必要です。また、DM-K840/K845 には POS/JIS キーボード接続用として変換ケーブル (DM-A400)が必要です。

□ バーコードスキャナ (DM-S160)

RS-232 インターフェースのバーコードスキャナ (DM-S160) を接続する場合は、+5V を供給するため に、SASPORT MR のジャンパ設定を変更する必要があります。COM3、COM4 のみ +5V を供給する ことができます。COM1/2 には供給できません。

詳細は、「SASPORT MR 詳細取扱説明書」をご覧ください。

□ キャッシュドロワの接続

TM プリンタ背面の「DK」と刻印されたポートに接続します。IM-800 に直接接続することは出来ません。

□ マウスの接続

IM-800のマウスコネクタに接続してください。

SASPORT の構成- SASPORT cubiell

■ 概要

SASPORT cubiell はタッチパネル搭載のパソコン POS です。Celeron プロセッサを搭載し、Windows NT/2000 対応のオープンプラットフォームです。豊富な周辺機器を組み合わせてシステムを構築できます。



■ 仕様

項目	SASPORT cubiell	
CPU	Intel Celeron プロセッサ 366 ~ 733MHz (L2 キャッシュ 128KB) Intel Pentium III プロセッサ 700MHz (L2 キャッシュ 256KB)	
メインメモリ	128MB(最大 256MB)	
OS	Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional	
HDD	2.5 型 6GB 以上 増設可能	
インターフェース	パラレル× 1、RS-232C × 6(*1)、USB(1.1) × 2(*3)、CRT × 1 KB/MOUSE × 1、Ethernet × 1、専用 KB/MSR × 1 カスタマディスプレイ × 1、キャッシュドロワ× 1	
拡張スロット	PCI × 2 コンパクトフラッシュカード× 1(オプションで× 2) (*2)	
外形寸法	リアカバー含む:252mm(W) × 457mm(D) × 261mm(H) リアカバー除く:252mm(W) × 386mm(D) × 261mm(H) (タッチパネル部は除く)	
重量	本体:約 10.8kg	
EMI 規格	VCCI class A	

(*1) 2 ポートは、専用 TM プリンタ / カスタマディスプレイ、タッチパネルに使用。

(*2) 内蔵コンパクトフラッシュカードまたは NV-RAM を選択可能。フロントコンパクトフラッシュ アダプタまたは CD-ROM ドライブを選択可能。

(*3) Windows 2000 Professional モデルのみ使用可能。

■ 構成例



□ 標準構成

種類	周辺機器	
タッチパネル付き LCD	DM-LR121SV/LR104SV/LR104T-252/253	
POS プリンタ	TM-T88IIR	
カスタマディスプレイ	DM-D110	
POS キーボード(小)	DM-KR028	
磁気ストライプリーダ	DM-MR112	
ドロワ	DM-Z400	
バーコードスキャナ	DM-S160-012/031	

■ 周辺機器の接続可否

SASPORT cubiell とエプソンの周辺機器の接続可否については、第1章「はじめに」-「SASPORT と周辺機器の接続可否」をご覧ください。

■ 周辺機器との接続

SASPORT cubieII と周辺機器を接続する場合は、以下の項目を参照してください。

ロ TM プリンタの接続

TM プリンタの末尾に「R」が付くプリンタは専用 TM プリンタです。SASPORT cubieII に搭載して 使用することができます。

オプションのプリンタトレイ (OI-R01) を使用して、SASPORT cubieII に載せることができる TM プリンタも用意されています。詳しくは購入元にお問い合わせください。

専用 TM プリンタ以外の TM プリンタを接続する場合は、SASPORT-TM 接続ケーブル (OI-C01) が必要になります。詳細は、TM プリンタのユーザーズマニュアル、および「SASPORT cubiell 詳細取扱説明書」をご覧ください。

□ カスタマディスプレイの接続

SASPORT cubieII 背面の「DM」ディスプレイコネクタに接続します。詳細はカスタマディスプレイ のユーザーズマニュアル、および「SASPORT cubieII 詳細取扱説明書」をご覧ください。

⚠ 注意

DM コネクタに電話線を接続すると、故障の原因になりますので絶対に接続しないでください。

□ モニタの接続

SASPORT cubiellのCRT コネクタに接続してください。

AC アウトレットは、SASPORT cubieII の仕様により、付いているものと付いていないものがあります。

AC アウトレットは、システムの電源オン/オフに連動します。

□ POS キーボードの接続

POS キーボードを使用するためにはキーの設定(キーの割付け)が必要となります。キー設定をするために、プログラミング用として JIS キーボード (DM-K090)が必要です。また、DM-K840/K845 または DM-K128 には POS/JIS キーボード接続用として変換ケーブル (DM-A400)が必要です。専用オプションとして、28 キー POS キーボード (DM-KR028)が用意されています。

□ バーコードスキャナ (DM-S160)

RS-232 インターフェースのバーコードスキャナ (DM-S160) を接続する場合は、+5V を供給するため に、SASPORT cubieII 内部のジャンパ設定を変更する必要があります。

また、COM5、COM6 はデフォルトでは使用できません。使用する場合は、次項「COM5、COM6 の 設定手順」項を参照し、BIOS 設定を変更してください。

メインボード上のジャンパ (J7-J18) にて COM1,COM2,COM5,COM6 ポートのピン1 へ供給する電源 を設定します。バーコードスキャナを接続した COM ポートのジャンパを、以下の通りに設定して ください。

		ピン1への出力	
ポート番号	ジャンパ	DCD 信号	+5V 電源
		(デフォルト)	(バーコードスキャナを接続する場合)
COM1	J7	Short	Open
	J8	Open	Short
	J9	Open	Open
COM2	J10	Short	Open
	J11	Open	Short
	J12	Open	Open
COM5	J13	Short	Open
	J14	Open	Short
	J15	Open	Open
COM6	J16	Short	Open
	J17	Open	Short
	J18	Open	Open

⚠ 注意

ジャンパ (J7-18) の同一 COM ポート上に2 つ以上のジャンパーキャップを取り付けない でください。SASPORT cubiell の回路基板の IC を破損する可能性があります。 COM ポート1(J7 ~9)、COM ポート2(J10 ~12)、COM ポート3(J13 ~15)、COM ポート4(J16 ~18) に、それぞれ1 つだけジャンパーキャップを取り付けてください。

□ COM5、COM6 の設定手順

COM5、COM6 はデフォルトでは使用できません。使用するためには、BIOS 設定を変更する必要があります。BIOS 設定を変更する場合は、以下の手順で行います。

🏾 注記:

BIOS 設定を行う場合は、必ずキーボードを接続してください。タッチパネルからは操作できません。。

- **1** SASPORT cubiell にキーボードを接続し、電源をオンにします。POST 処理中に DEL キー を押すと、BIOS セットアップユーティリティが起動します。
- **2** メインメニューから「INTEGRATED PERIPHERALS」を選択し、ENTER キーを押します。

3「INTEGRATED PERIPHERALS」メニューから、「Onboard Serial Port 5」および「Onboard Serial Port 6」を選択し、I/O アドレスと IRQ 番号を設定します。

② 注記:

I/Oアドレスと IRQ 番号は、他のポートと衝突しないよう、使っていないポート (パラレルポート 等) を Disabled にし、その空いた I/O アドレスと IRQ 番号を使用してください。

4 [ESC] キーを押してメインメニューに戻り、「SAVE & EXIT SETUP」を選択し、ENTER キーを押します。確認ダイアログが表示され、"Y" と入力し、ENTER キーを押します。

5 システムが起動し、COM5、COM6 が使用可能になります。

□ バーコードスキャナ (DM-S161)

キーボードインターフェースのバーコードスキャナ (DM-S161) を接続する場合は、次の手順に従っ て接続してください。

- 1 スキャナ (DM-S161) のミニ DIN オス側を SASPORT cubiell のキーボードコネクタに接続 します。
- 2 スキャナ (DM-S161) のミニ DIN メス側にキーボードのコネクタを接続します。

□ キャッシュドロワの接続

専用 TM プリンタが接続されている場合は、SASPORT cubieII 背面の「DKD」と刻印されたポート に接続します。専用 TM プリンタが接続されていない場合は、TM プリンタを接続して、TM プリン タ背面の「DK」と刻印されたポートに接続します。詳細は、「SASPORT cubieII 詳細取扱説明書」を ご覧ください。

🛇 注記:

専用 TM プリンタを搭載していない場合、SASPORT cubieII 背面の「DK」ポートにキャッシュドロワ を接続しても、使用できません。
□ マウスの接続

分岐コネクタ DM-A100 を使用することにより、マウスも同時に使用することができます。

分岐コネクタにマウス、POS キーボード (JIS キーボード)を接続するときは、「K」と刻印された端 子にマウスを、「M」と刻印された端子にキーボードを接続してください。

□ 磁気ストライプリーダ

専用オプション (DM-MR112) が用意されています。

SASPORT の構成- SASPORT cubie

■ 概要

SASPORT cubie はタッチパネルー体型のパソコン POS です。Windows 95/NT に対応し、IBM PC/AT 互換機で拡張性に優れたモデルなので、豊富な周辺機器を組み合わせてシステムを構築できます。



■ 仕様

項目	Windows 95 モデル	Windows NT モデル						
CPU	Intel Pentium プロセッサ 133MHz	MMX テクノロジ Intel Pentium プロセッサ 200MHz						
メインメモリ	32MB	64MB						
OS	Windows 95	Windows NT Workstation 4.0						
HDD	2.5 型 増設可能							
インターフェース	パラレル× 1、RS-232C × 4(*1)、USB × 2、RGB × 1 KB/MOUSE × 1、Ethernet × 1(*2)、専用 KB/MSR × 1 カスタマディスプレイ× 1、キャッシュドロワ× 1							
拡張スロット	PCI/ISA × 1(Etherr ISA × 1、フロント拡張ス	iet カードでも使用) ペロット× 1(オプション)						
外形寸法	寸法 リアカバー含む:252mm(W) × 454.5mm(D) × 250mm(H) リアカバー除く:252mm(W) × 386mm(D) × 250mm(H)							
重量	本体 : 約 9.7kg (HDD、カスタマディスプレイ、MSR、キャッシュドロワは除く							
EMI 規格	VCCI	class A						

(*1)2ポートは、内蔵プリンタ、カスタマディスプレイ、タッチパネルに使用。

(*2) Windows 95 モデルはオプション

■ 構成例



SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

□ 標準構成

種類	周辺機器
タッチパネル付き LCD	DM-LR104SV
POS プリンタ	TM-T88IIR
カスタマディスプレイ	DM-D110
POS キーボード(小)	DM-KR028
POS キーボード	DM-K840/K845/K128
磁気ストライプリーダ	DM-MR112
ドロワ	DM-Z400
バーコードスキャナ	DM-S160-012/031

■ 周辺機器の接続可否

SASPORT cubie とエプソンの周辺機器の接続可否については、第1章「はじめに」-「SASPORT と 周辺機器の接続可否」をご覧ください。

■ 周辺機器との接続

SASPORT cubie と周辺機器を接続する場合は、以下の項目を参照してください。

ロ TM プリンタの接続

TM プリンタの末尾に「R」が付くプリンタは専用 TM プリンタです。SASPORT cubie に搭載して使用することができます。

オプションのプリンタトレイ (OI-R01)を使用して、SASPORT cubie に載せることができる TM プリ ンタも用意されています。詳しくは購入元にお問い合わせください。 専用 TM プリンタ以外の TM プリンタを接続する場合は、SASPORT-TM 接続ケーブル (OI-C01) が必

専用 TM フリンタ以外の TM フリンタを接続する場合は、SASPORT-TM 接続クーフル (OF-COT) が必要になります。詳細は、TM プリンタのユーザーズマニュアルをご覧ください。

□ カスタマディスプレイの接続

SASPORT cubie 背面の「DM」ディスプレイコネクタに接続します。詳細はカスタマディスプレイの ユーザーズマニュアルをご覧ください。

⚠ 注意

DM コネクタに電話線を接続すると、故障の原因になりますので絶対に接続しないでくだ さい。

□ モニタの接続

SASPORT cubieの CRT コネクタに接続してください。

SASPORT cubie には DM-M510 を接続できるサービスコンセントがついています。モニタの電源ケー ブルはサービスコンセントに接続してください。SASPORT cubie の電源と連動して電源オン / オフ が可能になります。

□ POS キーボードの接続

POS キーボードを使用するためにはキーの設定(キーの割付け)が必要となります。キー設定をするために、プログラミング用として JIS キーボード (DM-K090)が必要です。また、DM-K840/K845 または DM-K128 には POS/JIS キーボード接続用として変換ケーブル (DM-A400)が必要です。 専用オプションとして、28 キー POS キーボード (DM-KR028)が用意されています。

□ バーコードスキャナ (DM-S160)

RS-232 インターフェースのバーコードスキャナ (DM-S160) を接続する場合は、+5V を供給するため に、SASPORT cubie 内部のジャンパ設定を変更する必要があります。 DM-S500 を接続する場合は、RS-232C インタフェースに電源を供給しないでください。

マザーボード上のジャンパ (J14) にて COM1 ~ COM4 ポートのピン1 へ供給する電源を設定します。 バーコードスキャナを接続した COM ポートのジャンパを、以下の通りに設定してください。

		ピン1・	への出力
ポート番号	ジャンパ	DCD 信号	+5V 電源
	(J14)	(デフォルト)	(バーコードスキャナを接続する場合)
COM1	1-2	Short	Open
	3-4	Open	Short
	5-6	Open	Open
COM2	7-8	Short	Open
	9-10	Open	Short
	11-12	Open	Open
COM3	13-14	Short	Open
	15-16	Open	Short
	17-18	Open	Open
COM4	19-20	Short	Open
	21-22	Open	Short
	23-24	Open	Open

ジャンパ (J14) の同一 COM ポート上に 2 つ以上のジャンパーキャップを取り付けないで ください。SASPORT cubie の回路基板の IC を破損する可能性があります。

COM ポート1(ピン1 ~ 6)、COM ポート2(ピン7 ~ 12)、COM ポート3(ピン13 ~ 18)、COM ポート4(ピン19 ~ 24) に、それぞれ1 つだけジャンパーキャップを取り 付けてください。

□ バーコードスキャナ (DM-S161)

キーボードインターフェースのバーコードスキャナ (DM-S161) を接続する場合は、次の手順に従って接続してください。

- **1** スキャナ (DM-S161) のミニ DIN オス側を SASPORT cubie のキーボードコネクタに接続します。
- **2** スキャナ (DM-S161) のミニ DIN メス側にキーボードのコネクタを接続します。

□ キャッシュドロワの接続

専用 TM プリンタが接続されている場合は、SASPORT cubie 背面の「DKD」と刻印されたポートに 接続します。専用 TM プリンタが接続されていない場合は、TM プリンタを接続して、TM プリンタ 背面の「DK」と刻印されたポートに接続します。

② 注記:

専用プリンタを搭載していない場合、SASPORT cubie 背面の「DKD」ポートにキャッシュドロワを接続しても、使用できません。

□ マウスの接続

分岐コネクタ DM-A100 を使用することにより、マウスも同時に使用することができます。

∞ 注記:

分岐コネクタにマウス、POSキーボード (JIS キーボード)を接続するときは、「K」と刻印された端 子にマウスを、「M」と刻印された端子にキーボードを接続してください。

□ 磁気ストライプリーダ

専用オプション (DM-MR112) が用意されています。

第3章 キーボード

キーボードを安全にお使いいただくために設置・ご使用の際には以下の注意事項を守ってご使用く ださい。

⚠ 警告:

- 製品を水などで濡らさないでください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- □ **コードを強く曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。** ケーブルの断線、被膜破れが発生し、故障、火災、感電の原因になります。

注意:

- □ SASPORT 本体への接続は、本体の電源をオフにしてから行ってください。
- □ 直接日光の当たるところや、暖房器具の近くでの使用は避けてください。 故障の原因になります。
- テレビやラジオ、強い磁界や電波を発生する装置の近くでの使用は避けてください。 故障の原因になります。
- コネクタの抜き差しは、コネクタ部を持って行い、コードを持って行わないでください。 断線などの故障の原因になります。
- コネクタのピンは、指で触るなどして汚したり、短絡させたりしないでください。 故障の原因になります。
- お客様による修理はおやめください。 ケガや故障、感電の原因になります。
- 製品の分解・改造はしないでください。 ケガや故障、感電の原因になります。
- □ 指定されている目的以外の使用をしないでください。
- 本製品は弊社 SASPORT シリーズと接続することを前提に動作確認しております。したがって、他社 PC と接続した結果の影響につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- □ 落としたり、ぶつけたりして、強い振動や衝撃を加えないでください。
- □ 磁気ストライプカードのリーダ部に異物を入れないでください。

🛇 注記:

クリーニングするときには、乾いた柔らかい布でからぶきし、絶対に水洗いしないでください。
 ・シンナー、ベンジンなどの揮発性の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。

- POS キーへの割付を行うには、JIS キーボードが必要となります。弊社では下記の製品をオプションとして用意してます。
 ・JIS キーボード: DM-K090 (JIS 109 キーボード)
- □ 指定品以外の JIS キーボードを使用した場合には、プログラミング不良、使用不具合が発生 することがあります。必ず指定のキーボード(DM-K090)をご使用ください。
- □ 指定された磁気カード以外は使用しないでください。
- ちり、油、水滴などの付いた磁気ストライプカードを使用すると、故障の原因になります。 磁気カードにちり、油、水滴などが付いている場合は、乾いた布などで拭き取ってからお 使いください。
- 2つのキーボードを接続して使用する場合には、2つのキーボードのキーが同時に入力されないよう、キーボードの上に物を置いたり、キーボードを立てかけてキーが押されるような状態で使用することは避けてください。
 ・入力上の不具合が発生する可能性があります。
- 2つのキーボードを接続して使用する場合には、2つのキーボードからの同時キー入力は避けてください。
 例: JIS キーボードで [Shiff]、POS キーボードで [a] (割付キー)等の同時入力は不具合が発生する場合があります。
- 磁気ストライプリーダでカードを読む時は、カードの底全体が磁気ストライプリーダのス ライド面に当るようにしてから、読み取り方向に水平にゆっくり移動してください。
 ・カードを斜めにしたり、読み取り途中で引き抜くと正常にカードが読めないことがあります。
- キーボードファーム機能が Disable になっていると使用できません。POS キーボードのプロ グラム等でキーボードファームを Disable にした時は、必ず Enable に設定してから使用 してください。

キーボードの概要説明

SASPORT シリーズで使用するキーボードには、POS キーボードと JIS キーボードがあります。

POS キーボード

POS 業務用にキーの割付けがされた専用のキーボードです。キーの他に、磁気ストライプリーダの 付いたものや、鍵のついたものがあります。 POS キーボードには以下のタイプがあります。

JIS キーボード

日本語入力や POS キーボードの割付けを行う時に使用します。

キーボードとマウスの接続

キーボードとマウスを接続する場合は、分岐ケーブル(DM-A100)を使用し、以下のように接続します。SASPORT MRには、キーボードコネクタとマウスコネクタがあるため、別々に接続してください。

注記:
 分岐ケーブルの「M」側にはキーボードを接続し、「K」側にはマウスを接続してください。
 キーボードを2つ以上接続して使用する場合は、以下のように接続します。

DM-K840/DM-K845

概要

DM-K840	84 キー POS キーボード(キーボード I/F)
DM-K845	ISO トラック 1,2(JIS Iトラック 1,2)および JIS Iに対応した磁気ス トライプリーダ付き 84 キー POS キーボード(キーボード I/F)

機能

- プログラム可能な84のキーがあり、1キーに最大21キャラクタ設定できます。
- DM-K845はMSRを装着して、ISO/JIS I型トラック1,2、JIS II型のカードを読むことができます。

梱包内容

梱包内容を確認してください。

8

5

6

4

1.	ユーザーズマニュアル	1 册
	本製品の取扱方法について、記載しています。	
2.	84 キー POS キーボード	1個
	84 キーの POS キーボードです。	
3.	プログラミング . ソフトウェアフロッピーディスク	1枚
	POS キーボードにキーを割付けするためのソフトウェアが登録されています。	
4.	キーカバー	84 個以上
	キートップにはめるカバーです。	
5.	2 倍キートップカバー ; キートップ	各8個
	2個分のキーを1つのキーとして設定するときに使用します。	
6.	4 倍キートップカバー ; キートップ	各2個
	4個分のキーを1つのキーとして設定するときに使用します。	
7.	テンキーキートップ	1セット
	数字入力に使用します。(0 ~ 9,00)	
8.	抜き取り器	1個
	出荷時に付いているキートップを取り外すために使用します。	
9.	保証書	1 冊
	修理が必要な場合使用します。	
10.	「本製品をお使いいただくために」	1枚
	本製品の取扱方法について、記載しています。	

② 注記:

2倍、4倍キーをプログラミングする場合は、使用ポジションの1カ所にキーコードを設定し、他の ポジションを無効キーにする必要があります。

各部の名称

1. POS +- (84 +-)

プログラム可能な 84 キーです。1 キーに最大 21 キャラクタ設定できます。84 キー全部で最大 192 キャラクタ設定できます。

2. 磁気ストライプリーダ (DM-K845)

ISO トラック 1,2(JIS トラック 1,2) および JIS II に対応した磁気カードを読み取ります。

3. キーボードケーブルコネクタ

SASPORT のキーボード接続コネクタに接続します。

4. JIS キーボードコネクタ

DM-K840/K845をプログラミングするための JIS キーボードを接続します。

5. シリアルコネクタ

本コネクタは使用しないでください。

6. 磁気ストライプリーダ LED ランプ (DM-K845)

2色の LED ランプで、キーボード動作の状態を知らせます。

- 緑 キーボードが作動可能な状態を示します。
 赤 磁気カードの読み取りにエラーが生じたことを示します。もう一度やり直してください。
- 消灯 キーボードが内部的に処理を続けていて操作を受け付けない状態を示しています。

注記:

ブザー機能により、磁気ストライプリーダの読み取り結果を知ることができます。読み取り OK の場 合はブザーが一度鳴り、読み取りエラーの場合は 3 度鳴ります。「キースイッチブザーを設定する」 を参照してください。

キーボードの接続

以下の手順に従って、キーボードを接続します。

■操作手順—

- **1** SASPORTの電源がオフになっていることを確認します。
- **2** DM-K840/DM-K845 のミニ DIN コネクタを、SASPORT のキーボード接続コネクタに接続します。

3 JIS キーボード(DM-K090)を、DM-K840/DM-K845 の JIS キーボードコネクタに接続します。

JIS キーボードのコネクタが PS/2 (ミニ DIN)の場合は、オプションの変換ケーブル が必要です。

② 注記:

M-K840/845をプログラミングするための JIS キーボード (DM-K090) は、 $F1 \sim F12$ までのファンクションキーが必要となります。

キーボードのプログラム時には、キーボードラインに DM-K840/DM-K845 と JIS キーボード (DM-K090) 以外の周辺機器を接続しないようにしてください。キーボード以外の機器 (マウス、MSR、ス キャナ等) が接続されていると、正しくプログラミングできない場合があります。

キーボードのプログラミング

■ プログラミングの前に -SASPORT cubie シリーズおよび SASPORT URBAN

SASPORT MR および一般の PC/AT 機では、外部キーボードのデータは直接本体のキーボードコント ローラ(以下 K/B コントローラ)で処理していますが、SASPORT cubie シリーズおよび SASPORT URBAN では、外部キーボードのデータはキーボードファームウェアが一旦受け取り、キーボード ファームウェアが K/B コントローラにデータを送信します。また SASPORT cubie シリーズのキー ロック、28 キーボードファームウェアがキーデータに変換し、外部キーボードと同様に本体の K/ B コントローラにデータを送信します。

外部 POS キーボード (DM-K840/K845/K128) のプログラミングをする場合は、キーボードファーム ウェアの一部の機能を Disable にする必要があります。キーボードファームウェアの機能を Desable にするには、CMDOFF コマンドを使用します。

また、プログラミングが終了した後、必ず再びキーボードファームウェアの機能を Enable に設定す る必要があります。キーボードファームウェアの機能を Enable にするには、CMDON コマンドを使 用します。

次の手順に従って、キーボードファームウェア機能を Disable に設定してください。

■操作手順-

- 1 MS-DOS 起動ディスクで SASPORT cubie シリーズ / URBAN を起動します。
- 2 MS-DOS 起動ディスクを取り出し、プログラミング・ソフトウェアフロッピーディスクを 挿入します。
- **3** コマンドプロンプトから次のように入力し、キーボードファームウェア機能を Disable にします。
 - SASPORT cubie の場合A:\> PKMODE CMDOFF と入力します。SASPORT cubieII//URBAN の場合A:\> PKMODE2 CMDOFF と入力します。

🔍 注記:

コマンドプロンプトが、 $A: \setminus > になっている場合は、US モードですが、<math>A: Y > になっている場合は、MS-DOS が日本語モードになっています。その場合は、US と入力し、$ [ENTER] キーを押して、US モードに切り替えてください。

以上でキーボードファームウェア機能を Disable に設定しました。再起動せずにプログラミングを行います。

プログラミングが終了したら、キーボードファームウェア機能を Enable に設定します。

1 キーボードファームウェア機能を Enable にします。

SASPORT cubie の場合 MS-DOS モードで、A: ▷PKMODE CMDON と入力し、[ENTER] を押します。 SASPORT cubieIII/ cubieII および SASPORT URBAN の場合、本体を再起動すると、自動的にキーボードファームウェア機能が Enable に設定されます。

■ 定義可能キー一覧

定義可能なキーは以下のとおりです。

OS 依存等により設定不可のキー	PrintScreen, ScrollLock, Pause, NumLock, CapsLock, Windows, Menu, Shift, Ctrl, Ctrl+Alt+Del, Ctrl+Esc							
組み合わせキーの制限	単独	Shift	Ctrl	Alt				
ESC	0	0	×	×				
Fn (ファンクションキー)	0	0	0	0				
1 3 4 5 7 8 9 0	0	0	0	0				
26	0	0	0	0				
a - z	0	0	0	0				
Tab	0	0	0	×				
BS	0	0	0	0				
Space	0	0	0	0				
Enter	0	0	0	0				
-[]¥	0	0	0	0				
=;'`,./	0	0	0	0				
Ins	0	0	0	0				
Del	0	0	0	0				
Home	0	0	0	0				
End	0	0	0	0				
PageUp	0	0	0	0				
PageDown	0	0	0	0				
↑	0	0	0	0				
Ļ	0	0	0	0				
\rightarrow	0	0	0	0				
←	0	0	0	0				
/* (Tenkey)	0	0	0	0				
-+ (Tenkey)	0	×	0	0				
Enter (Tenkey)	0	0	0	0				
0.123456789 (Tenkey)	0	×	0	0				

■ ユーティリティープログラムの起動と終了

次の手順に従って、ユーティリティーを起動させてください。

■操作手順------

1 SASPORT の電源を入れます。

キーボードのブザーが1度鳴り、LED ランプが緑色に点灯します。LED ランプ緑色 に点灯すれば、プログラミングの操作を始めることができます。

2 MS-DOS の起動ディスクで SASPORT を起動します。

② 注記:

コマンドプロンプトが、A:\ になっている場合は、US モードですが、A: ¥になって いる場合は、MS-DOS が日本語モードになっています。その場合は、US と入力し、 [ENTER] キーを押して、US モードに切り替えてください。

- 3 同梱の FD を、SASPORT の FDD に挿入します。
- **4** SASPORT のハードディスクに適切なディレクトリを指定して、FD のユーティリティー ソフトフェアをコピーします。

コピーしたファイルから起動するようにします。

5 JIS キーボード (DM-K090) で [**KB950-02**] と入力して、[**Enter**] を押します。KB950-02 ユー ティリティープログラムが起動して、次のメインメニュー画面が表示されます。

この画面から、キーボードの各プログラムを行います。

次の手順に従って、ユーティリティーを終了させてください。

■操作手順—

- **1** メインメニュー画面から [5] QUIT を選択します。
- 2 キーボードファームウェア機能を Enable にします。(手順については p3-11 を参照してく ださい。)

■ 画面・ファンクションキー説明

ロメインメニュー

KB95J SERIES 84-KEY P.O.S. KEYBOARD STRING PROGRAMMING SOFTWARE VERSION 2.2 BETA GIGA-TMS INC.	
[1] PROGRAMMING KEY-CODE	
[2] P.O.S. KEYBOARD CONFIGURATION	
[3] MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION	
[4] TEST KB950	
[5] QUIT	

[1] PROGRAMMING KEY-CODE

キーコードをプログラムする場合に選択します。

[2] P.O.S. KEYBOARD CONFIGURATION

キーブザーのオン/オフを設定したり、あるいは遅延時間を設定する場合に選択します。

[3] MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION

磁気ストライプリーダのパラメータを設定する場合に選択します。 SS/ES (データの始まりと終わりに識別コードを付けるか付けないか)、CR (Enter を付 けるか付けないか)を設定します。

[4] TEST KB950

DM-K840/DM-K845 をテストする場合に選択します。

DM-K840/DM-K845の動作をチェックするためのテスト環境を提供します。

[5] QUIT

プログラミングを終了する場合に選択します。

ロキーコードプログラミング画面

[F1] DEFA	ULT [F	2] L(DAD MA	AP [F3	B] SAV	/E MAF	P [F4]	CLEA	AR [F5	j] PRC	GRAM	MAP	[ESC]	EX I 1	Г
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78			
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79			
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80			
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81			
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82			
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83			
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84			
KEY POSIT	ION :	1													
SCAN CODE	LENG	TH [M/	X. 64	: 0											
[F11] STA	[F11] START [F12] END [ENTER] SET [UP/DOWN] SELECT KEY (Message)														

[F1] DEFAULT

デフォルト値で、キーコードのテーブル全体をプログラムする場合に選択します。デ フォルト値がロードされます。テーブル全体を一度でプログラムできるバッチプログ ラミングです。

[F2] LOAD MAP

前にプログラムし、ディスク上に保存したコードと同じコードを使って、キーボード のテーブル全体をプログラムする場合に選択します。この場合もテーブル全体のバッ チプログラミングですが、以前のコードをディスク上に保存していなければこの機能 は使えません。多くのキーボードに同じコードをプログラムする時に便利な機能です。

[F3] SAVE MAP

プログラムしたコードを保存します。

[F4]CLEAR

POS キーボードのキーコードをクリアします。クリアメニューが表示されます。

[F5] PROGRAM MAP

必要なキーコードをすべて入力し終わった後でプログラミングを開始します。プログ ラミングメニューが表示されます。

[Esc] EXIT

プログラミングを終了します。メインメニュー画面が表示されます。

KEY POSITION:

選択しているキーポジションの No. が表示されます。

SCAN CODE LENGTH [MAX.64]:

JIS キーボード (DM-K090) で選択し、プログラムしたキーのキャラクタ数が表示されます。

[F11] START

プログラミングの前に必要なキーのキーコードをエディットします。

[F12] END

キーのキーコードのエディットを終了します。

[ENTER] SET

[Enter]を押すと、F11とF12に関するプログラミングメニューが表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(DAD M	AP [F:	3] SA'	VE MAF	P [F4]	CLE	AR [FS	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83]	
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT	ION :	1											-	
SCAN CODE	LENG	TH [M/	AX. 64]: 0										
Set To :	[1]	Funct	ion K	ey F1	1	[4] AL	.T + F	12	[7]	SHIF	-T + F	F11		
	[2]	Funct	ion K	ev F1:	2	[5] C1	RL +	F11	[8]	SHIF	-T + F	F12		
	[3]	ALT +	F11	5		[6] C1	RI +	F12						
	Select :													
[F11] START [F12] END [ENTER] SET [UP/DOWN] SELECT KEY (Message)														

F11 と F12 に関するプログラミングテキストは、通常の方法ではエディットできません。F11, F12, Ctrl+F11, Ctrl+F12, Alt+F11, Alt+F12, Shift+F11, Shift+F12 などの機能を設定する場合は、[Enter]を押すと表示されるメニューから設定します。

```
[UP DOWN( 矢印キー )] SELECT
```

エディットしたいキー位置にカーソルを動かします。 KEY {Message}(メッセージ欄) 各操作をする際に、メッセージが表示される欄です。

メッセージ欄には、メッセージが表示されます。次に一例を示します。 Linking ・・・キーボードと SASPORT が交信中であることを示します。

- No responce ・ ・ SASPORT がキーボードと交信できないことを示します。
- Program OK ・・プログラミングが無事完了したことを示します。

ロプログラミングメニュー

キーコードプログラミング画面で、[F5]を押すと表示されるメニューです。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(OAD M	AP [F:	3] SAV	VE MAF	P [F4]	CLEA	AR [F5	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80		
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81		
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82		
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSITION : 1 SCAN CODE LENGTH [MAX.64]: 0														
<pre>[1] PROGRAM ALL MAP. [2] PROGRAM SPECIFIC KEY. [3] ABORT TO PROGRAM KEY. SELECT:_ [5] ABORT TO PROGRAM KEY. SELECT:[UP/DOWN] SELECT KEY (Message)PROGRAM</pre>														

[1] PROGRAM All MAP.

キーボードの84キーすべてをプログラムしたい場合に選択します。一度にテーブル全体がプログラムされます。

[2] PROGRAM SPECIFIC KEY.

ある特定のキーだけをプログラム(または変更)する場合に選択します。

[3] ABORT TO PROGRAM KEY. SELECT:

どのキーもプログラムしたくない場合に選択します。

ロクリアメニュー

```
キーコードプログラミング画面で、[F4]を押すと表示されるメニューです。
```

[F1] DEFA	ULT [I	F2] L	OAD M	AP [F3	B] SA	VE MAF	9 [F4]	CLEA	AR [F5	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC] EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78	
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79	
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83	
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84	
KEY POSITION : 1 SCAN CODE LENGTH [MAX. 64]: 0													
[1] CLEAR ALL MAP. [2] CLEAR SPECIFIC KEY. [3] ABORT TO CLEAR KEY. SELECT: [F11] START [F12] END [ENTER] SET [UP/DOWN] SELECT KEY (Message)													

[1] CLEAR ALL MAP.

キーボードの84キーすべてをクリアしたい場合に選択します。一度にテーブル全体が クリアされます。

[2] CLEAR SPECIFIC KET.

ある特定のキーだけをクリアする場合に選択します。

[3] ABORT TO CLEAR KEY. SELECT:

どのキーもクリアしたくない場合に選択します。

■ 基本的なプログラミング

_

■操作手順------

1 KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。メインメニュー画面が表示されます。

KB9	5J SERIES 84-KEY P.O.S. KEYBOARD STRING PROGRAMMING SOFTWARE VERSION 2.2 BETA GIGA-TMS INC.
[1]	PROGRAMMING KEY-CODE
[2]	P. O. S. KEYBOARD CONFIGURATION
[3]	MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION
[4]	TEST KB950
[5]	QUIT

2 [1] を押して、「PROGRAMMING KEY-CODE」を選択します。モニタに次の画面(キー コードプログラミング画面)が表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L	DAD M	AP [F3	3] SA'	VE MAF	P [F4]	CLE	AR [FS	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78]	
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80		
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81		
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82		
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT	ION :	1		_										
SCAN CODE	LENG	ТН [М.	AX. 64]: 0										
[F11] STA	RT [F	12] EI	ND [EI	NTER]	SET	[UP/DC)WN] S	SELEC	Γ ΚΕΥ	(Mess	sage)			

3 [F4] を押して、「CLEAR」を選択します。モニタに次の画面(画面にクリアメニュー)が 表示されます。

[F1] DEFA	ULI LI	-2] L(DAD M	AP LES	3] SAV	VE MAP	[[+4]	CLE	AR [F5) PRC	JGRAM	MAP	[ESC]	EXII
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80		
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81		
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82		
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT	ON :	1												
SCAN CODE	LENG	TH [M	AX 64	: 0										
[1] CLEAR [2] CLEAR [3] ABORT [F11] STA	ALL I SPEC TO CI RT [F	MAP. IFIC LEAR 12] EI	KEY. KEY. ND [EI	SELEC	CT : SET	[UP/DC	WN] S	ELEC1	r key	(Mess	sage)			

[F1] DEFAULT [F2] LOAD MAP [F3] SAVE MAP [F4] CLEAR [F5] PROGRAM MAP [ESC] EXIT

- **4** [1] を押して、画面上のキーマップをすべてクリアします。クリアが完了すると、メッセージ欄に "CLEAR ALL OK"が表示されます。
- JIS キーボード(DM-K090)の矢印キーを使用して、カーソルをエディットしたいキーの 位置に移動します。
 選択したキーは、"KEY POSITION:"に No. が表示されます。
- 6 [F11] を押して、エディットを開始します。メッセージ欄に"EDIT KEY"が表示されます。
- 7 選択したキーにプログラムしたいキーを JIS キーボード (DN-K090) より入力します。

- 8 [F12] を押してエディットを終了します。メッセージ欄に"EDIT OK"が表示されます。 入力したプログラミングテキストは、確認用に付録のキー割付け表に書き込みます。
- 9 次にエディットしたいキーの位置にカーソルを移動させ、手順6から続けます。

② 注記:

DM-K840/DM-K845では必ずしもすべてのキーをプログラム設定しなくても正しく機能します。

10 エディットしたキーコードデータを後で使用するために保存します。

② 注記:

同じキーコードもしくは類似したキーコードでプログラムしたい別のキーボードが ある場合に使用します。

(1)[F3]を押します。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(OAD M	AP [F:	3] SA'	VE MAP	[F4]	CLEA	NR [F5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83	1	
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT	ION : LENG	1 TH [M∕	AX. 64]: 9										
16 F0 1	6 03	FO	03	71 F() 71									
KEYIN KEY [F11] STA	CODE RT [F	FILEN/ 12] EI	AME [ND [EI	(B950- NTER]	-U. KE` SET	Y] :_ [UP/D0	WN] S	ELECI	- KEY	(Mess	sage)E	EDIT (ЭК	

(2)"KEYIN KEYCODE FILENAME [KB950-U.KEY]:"の欄にファイル名を入力します。 保存するファイル名には「*.KEY」を使用してください。ハードディスク(起動 ディスク以外)に保存する場合は、ファイル名の前にドライブ指定をしてください。 例:[sample.KEY]

② 注記:

ファイル名を入力しずに、[Enter]を押すと、デフォルトファイル名「KB950-U.KEY」で保存されます。

(3)[Enter] を押します。(4)保存が終了すると、メッセージ欄に "SAVE OK" が表示されます。

11 [F5] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。モニタに次の画面(プログラミングメ ニュー)が表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(DAD M/	AP [F3	3] SA'	VE MAP	9 [F4]	CLE	AR [F5	5] PR(DGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M,	AX. 64]]: 0										
[1] PROGR [2] PROGR [3] ABORT [F11] STA	AM ALI AM SPI TO PI RT [F	L MAP ECIFI ROGRAI 12] EI	C KEY. M KEY. ND [EI	SEL NTER]	_ECT : _ SET	UP/DC	WN] S	SELECT	r key	(Mess	sage)	PROGR	AM	

- **12** [1] を押して、作成したキーコードをキーボードにプログラムします。プログラミングが終 了すると、メッセージ欄に "PROGRAM OK"が表示されます。
- 13 どれか1つキーを押します。
- 14 プログラミングを終了する場合は、[Esc]を押してメインメニューに戻します。
- 15 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ 過去に保存したキーコードを使って複数のキーボードをプログラムする

過去に保存したキーコードと同じキーコードでキーボードをプログラミングしたい場合は、以下の 手順に従ってください。

■操作手順—

1 KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。

2 メインメニュー画面で [1] を押して、「PROGRAMMING KEY-CODE」を選択します。モニタに次の画面 (キーコードプログラミング画面)が表示されます。

[F1]	DEFA	ULT [I	F2] L(DAD M/	AP [F3	8] SAV	/E MAP	[F4]	CLEA	R [F5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
		1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
		2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
		3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
		4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
		5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
		6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
		7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY F SCAN	OSIT CODE	ION : LENG	1 TH [M.	AX. 64]]: 0									-	
[F11]	STA	RT [F	12] El	ND [EI	NTER]	SET	[UP/D0	WN] S	SELEC1	- KEY	(Mes	sage)			

3 [F2] を押して、「LOAD MAP」を選択します。モニタに次の画面が表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(DAD MA	AP [F3	SA	VE MAP	[F4]	CLEA	R [F5	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	-	15	-	- 20	26	42	50	-	- 64	71	70]	
		0	10	22	29	- 30	43	50	57	04	/1	/0	-	
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80]	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82]	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83]	
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT	ION :	1												
SCAN CODE	LENG	TH [M/	AX. 64]	: 0										
KEYIN KEY	CODE	FILEN/	AME [M	(B950-	U. KE	Y] :_								
[F11] STA	RT [F	12] El	ND [EN	NTER]	SET	[UP/DO	WN] S	ELECT	KEY	(Mess	sage)			

4 "KEYIN KEYCODE FILENAME [**KB950-U.KEY**]:"の欄に過去に保存したキーコードの ファイル名を入力します。ハードディスクに保存した場合は、ファイル名の先頭にドライ ブ指定をしてください。 5 [Enter]を押すと、キーコードがロードされてメッセージ欄に"LOAD OK"が表示されます。

② 注記:

デフォルトのファイル名「KB950-U. KEY」で保存したキーコードファイルを使用する 場合は、ファイル名を入力する必要はありません。

- 6 [F5] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。画面にプログラミングメニューが表示 されます。
- 7 [1] を押して、作成したキーコードをキーボードにプログラムします。プログラミングが終 了すると、メッセージ欄に "PROGRAM OK"が表示されます。
- 8 どれか1つキーを押します。
- 9 プログラミングを終了する場合は、[Esc]を押してメインメニューに戻します。
 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ デフォルトのキーコードテーブルをキーボードにプログラムする

■操作手順--

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- 2 メインメニュー画面で[1]を押して、「PROGRAMMING KEY-CODE」を選択します。モニタに次の画面(キーコードプログラミング画面)が表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L	OAD M	AP [F:	3] SAV	VE MAF	P [F4]	CLE/	AR [F	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78]	
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79]	
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M.	AX.64]: 0									-	
[F11] STA	RT [F	12] E	ND [EI	NTER]	SET	[UP/DC	OWN] S	SELEC ⁻	Γ ΚΕΥ	(Mess	sage)			

[F1] DEFA	ULT [I	F2] L(DAD MA	AP [F:	3] SAV	VE MAF	P [F4]	CLEA	R [F5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80		
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82		
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE 05 F0 0	ION : LENG 5	1 TH [M/	AX. 64 <u>-</u>	: 3										
[F11] STA	RT [F	12] EI	ND [EN	NTER]	SET	[UP/DC	OWN] S	SELEC1	- KEY	(Mess	sage)	LOAD	OK	

3 [F1] を押して、「DEFAULT」を選択します。デフォルトのキーコードがロードされてメッセージ欄に「LOAD OK」が表示されます。

DM-K840/DM-K845 は、次に示すようなデフォルトのキーコードがプログラムされています。

F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12
ESC	` ٢	! 1	@	# 3	\$ 4	% 5	^ 6	& 7	* 8	(9)
	· . ,		< ,	> .	Α	В	С	D	Е	F	G
+ =	",	? /	7	8	9	/	Н	Ι	J	K	L
BS	NUM	SCROL	4	5	6	*	Μ	Ν	0	Р	Q
TAB	CAPS	SHIFT	1	2	3	-	R	S	Т	U	V
CTRL	ALT	SPACE	00	0	•	+	ENTER	W	X	Y	Ζ

- **4** [F5] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。モニタにプログラミングメニューが表示されます。
- 5 [1] を押して、「PROGRAM ALL MAP.」を実行します。プログラミングが終了すると、メッ セージ欄に"PROGRAM OK"が表示されます。
- **6** どれか1つキーを押します。
- 7 プログラミングを終了する場合は、[Esc]を押してメインメニューに戻します。

8 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ キーボードをクリアする

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- **2** メインメニュー画面で [1] を押して、「PROGRAMMING KEY-CODE」を選択します。モニタに次の画面 (キーコードプログラミング画面)が表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L	DAD M	AP [F3	3] SAV	/E MAP	[F4]	CLEA	AR [F5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83]	
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M.	AX. 64]: 0									_	
[F11] STA	RT [F	12] E	ND [EI	NTER]	SET	[UP/DC	WN] S	SELEC1	KEY	(Mess	sage)			

3 [F4] を押して、「CLEAR」を選択します。画面にクリアメニューが表示されます。

[F1] DEFA	ULT [F2] L(DAD M/	\P [F3] SAV	/E MAP	[F4]	CLEA	AR [F5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81		
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82		
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M/	AX. 64]	: 0										
[1] CLEAR [2] CLEAR [3] ABORT [F11] STA	ALL SPEC TO C RT [F	MAP. IFIC I LEAR I 12] EI	KEY. KEY. ND [EM	SELEC	SET	[UP/DO	WN] S	ELECI	r Key	(Mess	sage)			

- 4 [1] ~ [3] のいずれかを押して、キーボードのキーコードをクリアします。
 - ●キーコードをすべてクリアしたい場合
 - (1)[**1**] を押します。
 - (2)画面上のキーマップをすべてクリアします。クリアが完了すると、メッセージ欄に "CLEAR ALL OK"が表示されます。
 - (3)[**F5**] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。画面にプログラミングメニュー が表示されます。
 - (4)[1] を押して、「PROGRAM ALL MAP.」を実行します。プログラミングが終了する と、メッセージ欄に"PROGRAM OK"が表示されます。
 - (5)どれか1つキーを押します。
 - ●特定のキーだけをクリアしたい場合
 - (1)3の[F4]を押す前に、JIS キーボード (DM-K090)の矢印キーを使用して、カーソル をクリアしたいキーの位置に移動します。選択したキーは、"KEY POSITION:"に No. が表示されます。
 - (2)[F4] を押して、「CLEAR」を選択します。画面にクリアメニューが表示されます。
 - (3)[**2**] を押して、「CLEAR SPECIFIC KEY.」を実行します。クリアが完了すると、メッ セージ欄に"CLEAR KEY OK"が表示されます。
 - (4)[**F5**] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。画面にプログラムメニューが表示されます。
 - (5)[**2**] を押して「PROGRAM SPECIFIC KEY.」を実行します。プログラミングが終了すると、メッセージ欄に"PROGRAM OK"が表示されます。
 - (6)どれか1つキーを押します。
 - (7)他にクリアしたいキーがある場合は、すべてのキーをクリアするまで手順(1)~手順
 (6)を繰り返します。

🔍 注記:

手順(1) ~手順(3)の操作を繰り返し行った後、[F5][1]を押して、プログラムメニューの「PROGRAM ALL MAP.」を実行することによっても、クリアできます。

- 5 プログラミングを終了する場合は、[Esc]を押してメインメニューに戻します。
- 6 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ キーボードのキーコードを変更する

作成したキーコードを変更したい時にこの機能を使います。

■操作手順—

1 モニタに次の画面(キーコードプログラミング画面)を表示させます。

[F1] DEFA	ULT [I	F2] L(OAD M/	AP [F:	3] SA'	VE MAF	P [F4]	CLE	AR [F5	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M.	AX. 64]]: 0									_	
[F11] STA	RT [F	12] El	ND [EI	NTER]	SET	[UP/DC	DWN] S	SELECT	Γ ΚΕΥ	(Mess	sage)			

- **2** JIS キーボード (DM-K090) の矢印キーを使用して、カーソルをエディットしたいキーの位置に移動します。選択したキーは、"KEY POSITION:"に No. が表示されます。
- 3 [F11]を押して、エディットを開始します。メッセージ欄に"EDIT KEY"が表示されます。
- **4** JIS キーボード (DN-K090) を使用して、選択したキーに新しくプログラムしたいキーを入 カします。

② 注記: プログラムできるキーの数は、1 文字から最長 21 文字までです。

- 5 [F12] を押してエディットを終了します。メッセージ欄に "EDIT OK" が表示されます。 変 更したプログラミングテキストは、確認用に付録のキー割付け表に書き込みます。
- 6 [F5] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。画面にプログラムメニューが表示されます。
- 7 [2] を押して「PROGRAM SPECIFIC KEY.」を実行します。プログラミングが終了すると、 メッセージ欄に "PROGRAM OK"が表示されます。
- 8 どれか1つキーを押します。

9 他に変更したいキーがある場合は、すべてのキーを変更するまで手順2~手順8を繰り返します。

🖏 注記:

手順2~手順5の操作を繰り返し行った後、[F5][1]を押して、プログラムメ ニューの「PROGRAM ALL MAP.」を実行することによっても、変更できます。

- 10 プログラミングを終了する場合は、[Esc] を押してメインメニューに戻します。
- 11 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ 過去に保存したキーコードを利用して新しくプログラムする

過去に保存したキーコードに近いキーコードでキーボードをプログラムしたいが、過去に保存した キーコードと異なるキーコードがある場合は、以下の手順に従ってください。

■操作手順-

- 1 「過去に保存したキーコードを使って複数のキーボードをプログラムする」の手順1~手順7を実行します。
- **2**「キーボードのキーコードを変更する」の手順に従って、変更したいキーのプログラミングをします。

■ デフォルトのキーコードテーブルを利用して新しくプログラムする

デフォルトのキーコードテーブルに近いキーコードでキーボードをプログラムしたいが、デフォル トテーブルとは異なるキーコードがある場合、以下の手順に従ってください。

■操作手順—

- 1 「デフォルトのキーコードテーブルにプログラムする」の手順1~手順3を実行します。
- **2**「キーボードのキーコードを変更する」の手順に従って、変更したいキーのプログラミングをします。
■ 一つのキーに Shift,Ctrl,Alt との組み合わせキーをプログラムする

■操作手順--

1 モニタに次の画面(キーコードプログラミング画面)を表示させます。

[F1] DEFA	ULT [I	F2] L(DAD M/	AP [F:	3] SAV	VE MAF	[F4]	CLEA	AR [F5	5] PR(OGRAM	MAP	[ESC]	EXIT
	1	8	15	22	29	36	43	50	57	64	71	78		
	2	9	16	23	30	37	44	51	58	65	72	79		
	3	10	17	24	31	38	45	52	59	66	73	80	1	
	4	11	18	25	32	39	46	53	60	67	74	81	1	
	5	12	19	26	33	40	47	54	61	68	75	82	1	
	6	13	20	27	34	41	48	55	62	69	76	83		
	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	84		
KEY POSIT SCAN CODE	ION : LENG	1 TH [M/	AX. 64]]: 0										
[F11] STA	RT [F	12] EI	ND [EI	NTER]	SET	[UP/DC	WN] S	SELECT	r Key	(Mes	sage)			

- **2** JIS キーボード (DM-K090) の矢印キーを使用して、カーソルをエディットしたいキーの位置に移動します。選択したキーは、"KEY POSITION:" に No. が表示されます。
- 3 [F11] を押して、エディットを開始します。メッセージ欄に"EDIT KEY"が表示されます。
- **4** JIS キーボード (DN-K090) を使用して、選択したキーにプログラムしたいキーを入力します。
 - **例**: Shift + A をプログラムする場合 [**Shift**]+[**A**] を押して対象となるキーに「Shift + A」を入力します。

② 注記:

プログラムできるキーの数は、1 文字から最長 21 文字までです。

- 5 [F12]を押してエディットを終了します。メッセージ欄に"EDIT OK"が表示されます。
- 6 入力したプログラミングテキストは、確認用に付録のキー割付け表に書き込みます。
- 7 [F5] を押して、「PROGRAM MAP」を選択します。画面にプログラムメニューが表示されます。
- **8** [2] を押して「PROGRAM SPECIFIC KEY.」を実行します。プログラミングが終了すると、 メッセージ欄に "PROGRAM OK"が表示されます。

9 どれか1つキーを押します。

10 Ctrl + A、Alt + A.... など、他にプログラムしたいキーがある場合は、すべてのキーを入力 するまで手順2~手順8を繰り返します。

🕲 注記:

手順2~手順5の操作を繰り返し行った後、[F5][1]を押して、プログラムメニューの「PROGRAM ALL MAP.」を実行することによっても、変更できます。

- 11 プログラミングを終了する場合は、[Esc]を押してメインメニューに戻します。
- 12 [5]を押して、プログラミングを終了します。

🕲 注記:

POSキーボードに「Shift + A」をプログラムする場合、別々にプログラムするので はなく、必ず1つのキー「Shift + A」をプログラムしてください。 例えば、あるキーを「Shift」、別のキーを「A」にプログラムして、それらのキーを 同時に押しても「Shift + A」の機能を実現しません。「Ctr1 +」、「A1t +」につい ても同様です。

■ キーブザーを設定する

■操作手順------

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- **2** メインメニュー画面で [2] を押して、「P.O.S. KEYBOARD CONFIGURATION」を選択します。モニタに次の画面が表示されます。



3 [1] を押して、「KEY BUZZER SWITCH」を選択します。画面に「KEY BUZZER (1) ON or (2) OFF:」が表示されます。



- **4** DM-K840/DM-K845 のキーを押した時にブザーを鳴らしたい場合は、[1][Enter] を押して、 「KEY BUZZER ON」を選択します。DM-K840/845 のキーを押した時にブザーを鳴らした くない場合は、[2][Enter] を押して、「KEY BUZZER OFF」を選択します。
- 5 メッセージ欄に "SET OK" と表示されたら、どれか1つキーを押します。
- 6 プログラミングを終了する場合は、[3]を押してメインメニューに戻します。
- 7 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ ディレイタイムを設定する

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- **2** メインメニュー画面で [2] を押して、「P.O.S. KEYBOARD CONFIGURATION」を選択します。モニタに次の画面が表示されます。



3 [2] を押して、「SET DELAY TIME」を選択します。 画面に「DELAY FACTOR 0-63 (*0.2ms)」 が表示されます。



- 4 キーボードと磁気ストライプリーダからデータを送信する速度に必要なディレイタイムを 設定するための DELAY FACTOR(遅延係数)を入力します。入力した係数に 0.2ms を乗 じた値がディレイタイムとなります。
- 5 メッセージ欄に "SET OK" と表示されたら、どれか1つキーを押します。
- 6 プログラミングを終了する場合は、[3]を押してメインメニューに戻します。
- 7 [5] を押して、プログラミングを終了します。

■磁気ストライプリーダのパラメータを設定する

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- 2 メインメニュー画面で [3] を押して、「MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION」 を選択します。モニタに次の画面が表示されます。



3 [1] ~ [3] のいずれかを選択して、磁気ストライプリーダのパラメータを設定します。

● SS/ES を追加する場合

SS/ES を追加すると、磁気カードのそれぞれのトラックデータは以下のように伝送されます。

ES

SS DATA of each Track SS:開始識別コード (ASCII) ISO, JIS Iトラック1は25H(%) ISO, JIS Iトラック2は3BH(;) JIS IIは7FH(スペース) ES:終了識別コード (ASCII) ISO, JIS Iトラック1,2は3FH(?) JIS IIは7FH(スペース)

 (1)[1] を押して、「MSR ADD SS/ES」を選択します。画面に「MSR ADD SS/ES (1) ON or (2) OFF:」が表示されます。

* * * * MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION * * * *
[1] MSR ADD SS/ES
[2] MSR ADD CARRIAGE RETURN (CR)
[3] BACK TO MAIN MENU
MSR ADD SS/ES (1)ON or (2)OFF :

(2)SS/ES を追加する場合は、[1][Enter] を押して、「MSR ADD SS/ES ON」を選択しま す。SS/ES を追加しない場合は、[2][Enter] を押して、「MSR ADD SS/ES OFF」を 選択します。

(3)メッセージ欄に "SET OK"と表示されたら、どれか1つキーを押します。

● Enter(CR) を追加する場合

(1) [2] を押して、「MSR ADD CARRIAGE RETURN (CR)」を選択します。 画面に「MSR ADD CR (1) ON or (2) OFF:」 が表示されます。

* * * *	* MAGNETIC STRIPE READER CONFIGURATION * * * * *
I	1] MSR ADD SS/ES
I	2] MSR ADD CARRIAGE RETURN (CR)
I	3] BACK TO MAIN MENU
	MSR ADD CR (1)ON or (2)OFF :

(2)Enter(CR) を追加する場合は、[1][Enter] を押して、「MSR ADD CR ON」を選択しま す。Enter(CR) を追加しない場合は、[2][Enter] を押して、「MSR ADD CR OFF」を 選択します。

(3)メッセージ欄に "SET OK"と表示されたら、どれか1つキーを押します。

4 プログラミングを終了する場合は、[3]を押してメインメニューに戻します。

5 [5]を押して、プログラミングを終了します。

■ DM-K840/DM-K845 をテストする

DM-K840/DM-K845のプログラミングが終了したら、以下の手順に従ってテストを行ってください。

- **1** KB950-02 ユーティリティープログラムを起動させます。
- 2 メインメニュー画面で [4] を押して、「TEST KB950」を選択します。モニタに次の画面が 表示されます。

	* * * * TEST SCREEN * * * *
[1]	TEST KEYBOARD INPUT (KB950's MSR, KEY, RS232 Etc.)
[2] 3	SELT TEST KB950
[3] [BACK TO MAIN MENU

- **3** [1] を押して、「TEST KEYBOARD INPUT」を選択します。モニタの画面がクリアされま すので、次のいずれかの処理をします。
 - (1) DM-K840/DM-K845 でキーを入力して、プログラミングした通りにすべてのキーが 正しく動作するか確認します。
 - (2)DM-K845の場合、磁気カードをストライプリーダのスロットに通して、リーダが正 しく動作するか確認します。ISO, JIS I対応のカードの場合、磁気ストライプのあ る面を手前に向けてスロットに通します。JIS I対応のカードの場合、磁気ストラ イプのある面を奥側に向けてスロットに通します。



(3)テスト終了後、いずれかのキーを押すと、テスト画面に戻ります。

- **4** [2] を押して、「SELF TEST」を選択します。DM-K840/DM-K845 が正常に動作するとブ ザーが1回鳴り、LED ランプが緑色に点灯します。DM-K840/DM-K845 が正常に動作しな い場合には、ブザーが3回鳴り LED ランプが消灯します。
- 5 テストを終了する場合は、[1]を押して、メインメニュー画面に戻します。
- 6 [5]を押して、プログラミングテストを終了します。

キートップ・ラベルの変更

■ キートップカバーの取り付け

キーボードユニットには、キートップカバーが同梱されています。キートップは上面がくぼんで おり、そこにキートップカバーを取り付けます。 キーの大きさに合わせて切った紙を用意します。その紙にキーの役割を書き、各キートップに セットします。その上からキートップカバーを取り付けると、キーの役割が一目で分かり、使い やすくなります。 キートップカバーをセットする場合は、以下の手順に従ってください。

- ■操作手順—
 - 1 キーの役割を書いた紙をキートップにセットします。
 - 2 キートップカバーを丸いくぼみがある面を上にして、キートップにはめます。 このとき、パチンと音がするまで、しっかりはめてください。



■ キートップカバーの取り外し

キートップカバーを取り外す場合は、以下の手順に従ってください。

- ■操作手順—
 - 1 抜き取り器を使って、キートップを外します。「キートップの変更」を参照してください。
 - 2 キートップを裏返し、ピンなどの先の細いものでキートップカバーを押し出します。



■ キートップの変更

キーボードユニットのキートップを2倍・4倍キー等に変更する場合は、以下の手順に従ってください。

■操作手順-----

1 キーボードユニットに同梱されている抜き取り器を、下図のように外したいキートップに 差し込みます。



- 2 抜き取り器を上に引き上げると、キートップが外れます。
- 3 複数のキートップを外す場合は、手順1~手順2を繰り返します。
- **4** 変更するキートップにキーの役割を書いた紙をセットして、キートップカバーをはめます。 「キートップカバーの取り付け」を参照してください。



注記:
 2倍、4倍キーをプログラミングする場合は、使用ポジションの1ヵ所にキーコードを設定し、他のポジションを無効キーにする必要があります。

仕様

項目	仕様
キー数	84 +
消費電力	最大 DC+5V 150mA (MSR を含まない)

磁気カードリーダインタフェース (DM-K845 のみ)

読み取りカード	JIS(ISO)-I トラック 1 および 2、JIS(ISO)-II
インタフェース	キーボード
寸法	195(奥行) X 290(幅) X 42(高)mm
ケーブル長	1.2m カールタイプ
重量	約 1.2kg

付録

■ キー割付け表

プログラミングを行う際にこの表に書き込んでください。 プログラミング時の確認用に使用してください。

No.	割付けキー	No.	割付けキー	No.	割付けキー
1		29		57	
2		30		58	
3		31		59	
4		32		60	
5		33		61	
6		34		62	
7		35		63	
8		36		64	
9		37		65	
10		38		66	
11		39		67	
12		40		68	
13		41		69	
14		42		70	
15		43		71	
16		44		72	
17		45		73	
18		46		74	
19		47		75	
20		48		76	
21		49		77	
22		50		78	
23		51		79	
24		52		80	
25		53		81	
26		54		82	
27		55		83	
28		56		84	

DM-K128

概要

DM-K128 128 キー POS キーボード キーロック付き キーボード I/F

機能

- プログラム可能な 128 のキーがあり、1 キーに最大3 キャラクタ設定できます。
- POS ロックキーがあり、8 ポジションでの操作が可能です。
- 外部プログラミングキットを必要としません。

梱包内容

梱包内容を確認してください。



1.	ユーザーズマニュアル	1 冊
	本製品の取扱方法について、記載しています。	
2.	128 キー POS キーボード	1個
	128 キーの POS キーボードです。	
3.	プログラミング . ソフトウェアフロッピーディスク	1枚
	POSキーボードにキーを割付けするためのソフトウェアが登録されています。	
4.	2 倍キートップカバー ; キートップ	各8個
	2個分のキーを1つのキーとして設定するときに使用します。	
5.	4 倍キートップカバー ; キートップ	各2個
	4個分のキーを1つのキーとして設定するときに使用します。	
6.	テンキーキートップ	1セット
	数字入力に使用します。(0 ~ 9,00)	
7.	抜き取り器	1個
	出荷時に付いているキートップを取り外すために使用します。	
8.	ロックキー用キー	6個
	使用者によるモードの選択や、キーボードのロックを行います。	
9.	保証書	1 冊
	修理が必要な場合使用します。	
10.	「本製品をお使いいただくために」	1枚
	本製品の取扱方法について、記載しています。	

ᅠ 注記:

2倍、4倍キーをプログラミングする場合は、使用ポジションの1カ所にキーコードを設定し、他の ポジションを無効キーにする必要があります。

また、本製品用に、以下のオプションが用意されています。

● 2倍キー

- 4倍キー
- 変換ケーブル (ミニ DIN-DIN)

各部の名称



1. POS +- (128 +-)

プログラム可能な 128 キーです。1 キーに最大 3 キャラクタ設定できます。128 キー全部で最大 384 キャラクタ設定できます。

2. キーボードケーブル

SASPORT のキーボード接続コネクタに接続します。

3. JIS キーボードコネクタ

DM-K128 をプログラミングするための JIS キーボードを接続します。

4. POS ロックキースイッチ

PRG、OFF、REG、MA1,X、Z、MA2、Sの8ポジションあります。

5. LED

キーボード動作の状態を知らせます。

ON	ロックキーが OFF 以外のポジションに入ると点灯します。
Num Lock	Num Lock 状態の時点灯します。
Caps Lock	Caps Lock 状態の時点灯します。

🖄 注記:

JIS キーボードのコネクタが PS/2 (ミニ DIN) の場合はオプションの変換ケーブル (ミニ DIN-DIN) が必要です。

SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

キーボードの接続



■操作手順-

- **1** SASPORT の電源がオフになっていることを確認します。
- **2** DM-K128 のミニ DIN コネクタを、SASPORT のキーボード接続コネクタに接続します。
- **3** JIS キーボードを、DM-K128 の JIS キーボードコネクタに接続します。

🕲 注記:

JIS キーボードのコネクタが PS/2 (ミニ DIN) の場合は、オプションの変換ケーブルが必要です。プログラムのインストール時は、キーボードラインに DM-K128 と JIS キーボード (DM-K090) 以外の周辺機器を接続しないようにしてください。キーボード以外の機器(マウス、MSR、スキャナ等)が接続されていると、正しくプログラミングできない場合があります。

キーボードのプログラミング

■ プログラミングの前に -SASPORT cubie シリーズおよび SASPORT URBAN

SASPORT MR および一般の PC/AT 機では、外部キーボードのデータは直接本体のキーボードコント ローラ (以下 K/B コントローラ) で処理していますが、SASPORT cubie シリーズおよび SASPORT URBAN では、外部キーボードのデータはキーボードファームウェアが一旦受け取り、キーボード ファームウェアが K/B コントローラにデータを送信します。また SASPORT cubie シリーズのキー ロック、28 キーボードファームウェアがキーデータに変換し、外部キーボードと同様に本体の K/ B コントローラにデータを送信します。

外部 POS キーボード (DM-K840/K845/K128) のプログラミングをする場合は、キーボードファーム ウェアの一部の機能を Disable にする必要があります。キーボードファームウェアの機能を Desable にするには、CMDOFF コマンドを使用します。

また、プログラミングが終了した後、必ず再びキーボードファームウェアの機能を Enable に設定す る必要があります。キーボードファームウェアの機能を Enable にするには、CMDON コマンドを使 用します。

次の手順に従って、キーボードファームウェア機能を Disable に設定してください。

■操作手順--

- **1** MS-DOS の起動ディスクで SASPORT cubie シリーズ / URBAN を起動します。
- 2 MS-DOS 起動ディスクを取り出し、プログラミング・ソフトウェアフロッピーディスクを 挿入します。
- 3 コマンドプロンプトから次のように入力し、キーボードファームウェア機能を Disable にします。
 - SASPORT cubie の場合A:\> pKMODE CMDOFF と入力します。SASPORT cubieIII/cubieII/URBAN の場合A:\> pKMODE2 CMDOFF と入力します。

🖄 注記:

コマンドプロンプトが、A:**\>** になっている場合は、US モードですが、A: ¥> になっている場合は、MS-DOS が日本語モードになっています。その場合は、US と入力し、 [ENTER] キーを押して、US モードに切り替えてください。

以上でキーボードファームウェア機能を Disable に設定しました。再起動せずにプログラミングを行います。

プログラミングが終了したら、キーボードファームウェア機能を Enable に設定します。

■操作手順—

1 キーボードファームウェア機能を Enable にします。

SASPORT cubie の場合 MS-DOS モードで、A:\>PKMODE CMDON と入力し、[ENTER] を押します。 SASPORT cubieIII/ cubieII および SASPORT URBAN の場合、本体を再起動すると、自動的にキーボードファームウェア機能が Enable に設定されます。

■ ユーティリティープログラムの起動と終了

次の手順に従って、ユーティリティーを起動させてください。

■操作手順-------

- 1 SASPORTの電源を入れます。
- **2** MS-DOS の起動ディスクで SASPORT を起動します。

🏾 注記:

コマンドプロンプトが、A:\ になっている場合は、US モードですが、A: ¥になって いる場合は、MS-DOS が日本語モードになっています。その場合は、US と入力し、 [ENTER] キーを押して、US モードに切り替えてください。

- 3 DM-K128 のロックキーを "REG" ポジションに回して LED ランプ "ON" が点灯することを 確認します。
- **4** DM-K128 のロックキーを OFF 以外のポジションに合わせます。
- **5** 同梱の FD を、SASPORT の FDD に挿入します。
- 6 SASPORT のハードディスクに適切なディレクトリを指定して、FD のユーティリティー ソフトフェアをコピーします。コピーしたファイルから起動するようにします。

V	/ER :	3.1		PRO	G (DFF	RE	G M	IA1	X		Z	MA	Z	S
15/	/02/	1995	5	86	86 NC			84 83			81 82			8	87
80	78	70	68	60	58	50	48	40	38	30	28	20	18	10	08
7F	77	6F	67	5F	57	4F	47	3F	37	2F	27	1F	17	0F	07
7E	76	6E	66	5E	56	4E	46	3E	36	2E	26	1E	16	0E	06
7D	75	6D	65	5D	55	4D	45	3D	35	2D	25	1D	15	OD	05
70	74	6C	64	5C	54	4C	44	30	34	20	24	10	14	00	04
7B	73	6B	63	5B	53	4B	43	3B	33	2B	23	1B	13	0B	03
7A	72	6A	62	5A	52	4A	42	ЗA	32	2A	22	1A	12	0A	02
79	71	69	61	59	51	49	41	39	31	29	21	19	11	09	01
<f1< td=""><td>> 0</td><td>Juit</td><td><f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa:</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to d</td><td>lisk</td></f<></td></f1<>	> 0	Juit	<f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa:</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to d</td><td>lisk</td></f<>	2>	Set	pa:	st m	ode	cod	e <	(F3>	> Sa	ave	to d	lisk
									*	Inp	ut k	ey p	posi	tior	ו : <u> </u>

7 JIS キーボード (DM-K090) で [DEF128.EXE] と入力して、[Enter] を押します。 DEF128 ユーティリティープログラムが起動して、次の画面が表示されます。

上の各四角の中の数字は、キーポジションを示しています。 画面の右上の8つはロックキーのポジションを示しています。

この画面から、プログラムを行います。

次の手順に従って、ユーティリティーを終了させてください。

■操作手順------

- **1** ユーティリティの起動画面から [F1] キーを押します。
- 2 キーボードファームウェア機能を Enable にします。(手順については p3-52 を参照してく ださい。)

■ 基本的なプログラミング

プログラミングを始める前に、付録に示すキーコードテーブルを確認します。キーコードテーブル は IBM PC のキーボードとほぼコンパチブルで、いくつかの特別なキーコードを追加したセットに なっています。

🕅 注記:

EC から FF までのコードは使用できません。

■操作手順—

				PRO	à C	DFF	RE	G N	1A1	Х		Ζ	MA	Z	S
15	VER 3.1 15/02/1995					NC	84		83	8	1	82	8	В	87
80	78	70	68	60	58	50	48	40	38	30	28	20	18	10	08
7F	77	6F	67	5F	57	4F	47	3F	37	2F	27	1F	17	0F	07
7E	76	6E	66	5E	56	4E	46	3E	36	2E	26	1E	16	0E	06
7D	75	6D	65	5D	55	4D	45	3D	35	2D	25	1D	15	OD	05
70	74	6C	64	5C	54	4C	44	30	34	20	24	10	14	00	04
7B	73	6B	63	5B	53	4B	43	3B	33	2B	23	1B	13	0B	03
7A	72	6A	62	5A	52	4A	42	3A	32	2A	22	1A	12	0A	02
79	71	69	61	59	51	49	41	39	31	29	21	19	11	09	01
<f1< td=""><td>> (</td><td>Juit</td><td><f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa:</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>lisk</td></f<></td></f1<>	> (Juit	<f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa:</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>lisk</td></f<>	2>	Set	pa:	st m	ode	cod	e <	(F3>	> Sa	ave	to c	lisk
									*	Inpu	ut k	ey p	bosi	tior	ו :_

1 DEF128 ユーティリティープログラムを起動させます。次の画面が表示されます。

				PR	3	OFF	RE	GN	IA1	Х		Ζ	MA	Z	S
۷ 15	/ER : /02/	3.1 1995	j	86	86 NC		84		83	81		82	82 88		87
xx	78	70	68	60	58	50	48	40	38	30	28	20	18	10	08
7F	77	6F	67	5F	57	4F	47	3F	37	2F	27	1F	17	0F	07
7E	76	6E	66	5E	56	4E	46	3E	36	2E	26	1E	16	0E	06
7D	75	6D	65	5D	55	4D	45	3D	35	2D	25	1D	15	0D	05
70	74	6C	64	5C	54	40	44	30	34	20	24	10	14	00	04
7B	73	6B	63	5B	53	4B	43	3B	33	2B	23	1B	13	0B	03
7A	72	6A	62	5A	52	4A	42	3A	32	2A	22	1A	12	0A	02
79	71	69	61	59	51	49	41	39	31	29	21	19	11	09	01
<f1< td=""><td>> (</td><td>Juit</td><td><f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>t pa</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>disk</td></f<></td></f1<>	> (Juit	<f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>t pa</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>(F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>disk</td></f<>	2>	Set	t pa	st m	ode	cod	e <	(F3>	> Sa	ave	to c	disk
									*	^t Inp	out	key	code	:_	

2 JIS キーボード (DM-K090) を使用して、プログラムしたいキーのキーポジションナンバー を入力し、[Enter] を押します。

画面右下に "Input Key code: ____"のメッセージが表示されます。

3 付録に示すキーコードテーブルを参照して、00から EB までのキーコードデータを入力します。

各アンダーラインの入力ごとに [Enter] を押します。どのキーも3キーコードまで定義できます。

無効キーにしたい場合は、3 つのアンダーラインすべてを 00 にします。キーに設定したい キーコードデータが一つの場合は、残る 2 つのアンダーラインに 00 と 00 を入力します。 設定したいキーコードデータが 2 つの場合は、残る 1 つのアンダーラインに 00 を入力し ます。

🔍 注記:

2倍キー、4倍キーをプログラミングする場合は、使用ポジションの1ヶ所にキー コードを設定し、他のポジションは無効キーにする必要があります。 4 3 つのアンダーラインの入力をすべて終えたら、このキーに対するキーコードデータが DM-K128 に転送されます。メッセージ欄に"input ok"が表示されます。

入力したプログラミングテキストは、確認用に付録のキー割付け表に書き込みます。

🕲 注記:

キーコードデータを変更する場合は、キーポジションの入力からやり直します。

5 手順1~手順4を繰り返して、プログラムしたいすべてのキーをプログラミングします。

🕲 注記:

DM-K128 では必ずしもすべてのキーをプログラム設定しなくても正しく機能します。

入力したキーコードデータを変更するときは、変更したいキーポジションナンバーを入力 して、再度キーコードデータを入力します。

6 設定したキーコードデータを後で使用するために保存します。

(1) [F3] を押します。メッセージ欄に "Input file name <model.dat>:" が表示されます。
 (2)保存したいキーコードファイルにファイル名を入力します。保存するファイル名には「*.dat」を使用します。ハードディスク(起動ドライブ以外)に保存する場合は、ファイル名の前にドライブを指定します。
 例:[sample.dat]

🕲 注記:

ファイル名を入力しずに、[Enter]を押すと、デフォルトファイル名「model.dat」 で保存されます。

(3)[Enter] を押します。

7 プログラムを終了する場合は、[F1]を押します。

■ 過去に保存したキーコードを使って複数のキーボードをプログラミングする

過去に保存したキーコードと同じキーコードでキーボードをプログラムしたい場合は、以下の手順 に従ってください。

■操作手順——

- **1** SASPORT の電源を入れます。
- **2** MS-DOS の起動ディスクで SASPORT を起動します。

🛇 注記:

コマンドプロンプトが、A: > になっている場合は、US モードですが、A: ¥ となっている場合は、MS-DOS が日本語モードになっています。その場合は、US と入力し、 [ENTER] キーを押して、US モードに切り替えてください。

- **3** DM-K128 のロックキーを "REG" ポジションに回して LED ランプ "ON" が点灯することを 確認します。
- 4 DM-K128 のロックキーを OFF 以外のポジションに合わせます。
- 5 DEF128 ユーティリティープログラムを起動するときに、過去に保存したキーコードのファイル名も入力します。ハードディスクに保存した場合は、ファイル名の先頭にドライブ指定をしてください。
 例: [DEF128 sample.EXE]
- **6** [Enter] を押すと、モニタに "******Programming Now!!*****" が表示されて、プログラミングします。

■ 過去に保存したキーコードを利用して新しくプログラムする

過去に保存したキーコードに近いキーコードでキーボードをプログラムしたいが、過去に保存した キーコードと異なるキーコードがある場合は、以下の手順に従ってください。

■操作手順—

7 DEF128 ユーティリティープログラムを起動させます。次の画面が表示されます。

				PR) (DFF	RE	G N	IA1	Х		Ζ	MA	Ζ	S
\ 15/	/ER 3 /02/	3.1 1995	ō	86		NC	84		83	8		82	8	8	87
80	78	70	68	60	58	50	48	40	38	30	28	20	18	10	08
7F	77	6F	67	5F	57	4F	47	3F	37	2F	27	1F	17	0F	07
7E	76	6E	66	5E	56	4E	46	3E	36	2E	26	1E	16	0E	06
7D	75	6D	65	5D	55	4D	45	3D	35	2D	25	1D	15	OD	05
70	74	6C	64	5C	54	40	44	30	34	20	24	10	14	00	04
7B	73	6B	63	5B	53	4B	43	3B	33	2B	23	1B	13	0B	03
7A	72	6A	62	5A	52	4A	42	3A	32	2A	22	1A	12	0A	02
79	71	69	61	59	51	49	41	39	31	29	21	19	11	09	01
<f1< td=""><td>> (</td><td>Juit</td><td><f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>disk</td></f<></td></f1<>	> (Juit	<f< td=""><td>2></td><td>Set</td><td>pa</td><td>st m</td><td>ode</td><td>cod</td><td>e <</td><td>F3></td><td>> Sa</td><td>ave</td><td>to c</td><td>disk</td></f<>	2>	Set	pa	st m	ode	cod	e <	F3>	> Sa	ave	to c	disk
									*	Inpu	ut k	ey p	bosi	tior	n :_

- **2** [F2] を押すと、メッセージ欄に"*input file name 〈mode1.dat〉:"が表示されます。
- 3 「*input file name 〈mode1.dat〉:」の欄に過去に保存したキーコードのファイル名を入力します。ハードディスクに保存した場合は、ファイル名の先頭にドライブ指定をしてください。

例:[sample.dat]

- **4** [Enter] を押すと、キーコードがロードされて、次の画面が表示されます。
- 5 JIS キーボード (DM-K090) を使用して、変更したいキーのキーポジションナンバーを入力 し、[Enter] を押します。
- 6 「基本的なプログラミング」の手順3~手順8を実行します。

■ プログラムした内容を確認するには

プログラムした任意のキーを押すと、モニタにプログラムしたテキストが表示されますので、その 内容を記入したキー割付け表と比較して確認します。 プログラミングが完了したら、キーが正常に設定されているか、MS-DOS 上でキー入力して確認し ます。

キートップ・ラベルの変更

■ キートップの変更

キーボードユニットのキートップを2倍・4倍キー等に変更する場合は、以下の手順に従ってください。

■操作手順--

1 キーボードユニットに同梱されている抜き取り器を、下図のように外したいキートップに 差し込みます。



- 2 抜き取り器を上に引き上げると、キートップが外れます。
- 3 複数のキートップを外す場合は、手順1~手順2を繰り返します。
- 4 キーキャップを取り外して、変更するキートップにキーの役割を書いたラベルをセットします。



5 キーキャップをはめます。このとき、パチンと音がするまで、しっかりはめてください。



注記:
 2倍、4倍キーをプログラミングする場合は、使用ポジションの1ヵ所にキーコードを設定し、他のポジションを無効キーにする必要があります。

■ キーネームラベルの取り付け

- 1 キートップを外します。「キートップの変更」を参照してください。
- 2 キーキャップを取り外します。



- **3** キートップにキーの役割を書いたラベルをセットします。
- 4 キーキャップを元のように取り付けます。
- 5 キートップを上からまっすぐ差し込みます。

SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

DM-K128の使い方

MSR ユニットなどの周辺機器を接続する場合は、各周辺機器のマニュアルまたは本体の詳細取扱説 明書に従って、正しく接続してください。

■操作手順------

- 1 周辺機器を接続します。
- 2 SASPORTの電源をオンにします。

🕲 注記:

DM-K128 キーボードのロックキーはどのポジションにあっても構いません。

3 DM-K128 キーボードのロックキーが "OFF" の場合は "ON" にします。その後は適宜それぞれのポジションに合わせて使用します。

特別キーの「A ~ Z」は、Caps Lock 状態が ON だと小文字「a ~ z」となります。

項目	仕様
キー数	128 キー(プログラマブル)
キーロック	8 ポジション(プログラマブル)
1キーあたりのキー コード数	3 キーコード MAX
消費電力	5V DC、30mA
インタフェース	キーボード
寸法	233(奥行)× 353(幅)× 43(高)mm
ケーブル長	約 1.0m カールタイプ
重量	約 1.7kg

仕様

付録

■ DM-K128 キーコードテーブル

キーボードテーブル(IBM コンパチブル)				キーコードテーブル(特別キー)				
100KEY	KEY CODE	100KEY	KEY CODE	100KEY	KEY CODE	100KEY	KEY CODE	
Aa	1CH	Enter	5AH	!	96H	}	DDH	
Bb	32H	Ctrl	14H	"	9EH	<	C1H	
Cc	21H	Esc	76H	#	A6H	>	C9H	
Dd	23H	Back ←	66H	\$	A5H	?	CAH	
Ee	24H	Tab	ODH	%	AEH	Ins	61H	
Ff	2BH	' @	54H	&	B6H	Del	6FH	
Gg	34H	{[5BH	4	BDH	Home	68H	
Hh	33H	}]	5DH	(C6H	End	62H	
Ti	43H	<,	41H	=	CEH	PgUp	6DH	
Jj	3BH	>.	49H	6	D4H	PgDn	64H	
Kk	42H	?/	4AH	{	DBH	1	6AH	
LI	4GH	Alt	11H	+	CCH	\downarrow	63H	
Mm	3AH	Space	29H	*	D2H	←	65H	
Nn	31H	Caps	58H	A	9CH	\rightarrow	67H	
00	44H	Num	77H	В	B2H	Pause	60H	
Рр	4DH	Scroll	7EH	C	A1H	1	6EH	
Qq	15H	F1	05H	D	A3H	{	BEH	
Rr	2DH	F2	06H	E	A4H	~	D5H	
Ss	1BH	F3	04H	F	ABH	Null	00H	
Tt	2CH	F4	OCH	G	B4H	Shift+F1	85H	
Uu	3CH	F5	03H	Н	B3H	Shift+F2	86H	
Vv	2AH	F6	OBH	1	C3H	Shift+F3	84H	
Ww	1DH	F7	02H	J	BBH	Shift+F4	8CH	
Хх	22H	F8	OAH	K	C2H	Shift+F5	83H	
Yy	35H	F9	01H	L	CBH	Shift+F6	8BH	
Zz	1AH	F10	09H	M	BAH	Shift+F7	82H	
!1	16H	F11	78H	N	B1H	Shift+F8	8AH	
"2	1EH	F12	07H	0	C4H	Shift+F9	81H	
#3	26H	*	7CH	Р	CDH	Shift+F10	89H	
\$4	25H	-	7BH	Q	95H	Shift+Tab	8DH	
%5	2EH	+	79H	R	ADH	Shift+Alt	91H	
&6	36H	1End	69H	S	9BH	Shift+Ctrl	94H	
' 7	3DH	2↓	72H	Т	ACH	00	A9H	
(8	3EH	3PgDn	7AH	U	BCH			
)9	46H	4 ←	6BH	V	AAH			
0	45H	5	73H	W	9DH			
	4EH	$6 \rightarrow$	74H	Х	A2H			
~~	55H	7Home	6CH	Y	B5H			
+;	4CH	8 ↑	75H	Z	9AH			
*:	52H	9PgUp	7DH					
半角/全角	0EH	0Ins	70H					
Shift	12H	.Del	71H					

特別キーの A から Z は、CapsLock 状態が ON だと小文字 a から z となります。 キーコード EC から FF は使用できません。 00 キーを割り付ける場合は、特別キーの「A9H」を割り付けてください。

■ キー割付け表

プログラミングを行う際にこの表に書き込んでください。 プログラミング時の確認用に使用してください。 ひとつのキーに同じキーコードを続けて定義しないでください。正しくキー入力されない場合があ ります。 例){16161E}NG

{16 1E 1E} NG

{16 1E 16} OK

No.	割付けキー	No.	割付けキー	No.	割付けキー
01		31		61	
02		32		62	
03		33		63	
04		34		64	
05		35		65	
06		36		66	
07		37		67	
08		38		68	
09		39		69	
10		40		70	
11		41		71	
12		42		72	
13		43		73	
14		44		74	
15		45		75	
16		46		76	
17		47		77	
18		48		78	
19		49		79	
20		50		80	
21		51		81	
22		52		82	
23		53		83	
24		54		84	
25		55		86	
26		56		87	
27		57		88	
28		58			
29		59			
30		60			

No.	割付けキー	No.	割付けキー	No.	割付けキー
0A		3A		6A	
OB		3B		6B	
00		30		6C	
OD		3D		6D	
0E		3E		6E	
0F		3F		6F	
1A		4A		7A	
1B		4B		7B	
10		4C		70	
1D		4D		7D	
1E		4E		7E	
1F		4F		7F	
2A		5A		NC	
2B		5B			
20		5C			
2D		5D			
2E		5E			
2F		5F			

DM-K090

概要

	DM-K090	JIS キーボード キーボード I/F	
梱	回内容		
	梱包内容を確認してくだ	さい。	
		1 2	
	•		
		3	
		, i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	
	1. 「本製品をお使いい	ただくために」	1 冊
	本製品の取扱方法は	こついて、記載しています。	
	2. 保証書		1枚
	修理が必要な場合	吏用します。	
	3. JIS キーボード		1個
	<u></u>		
仕村	汞		
	項目	仕様	
	定格電圧	5V DC	
	消費電流	100mA max LED 全点灯時	
	インタフェース	キーボード I/F ミニ DIN	
	寸法	172(奥行)× 454(幅)× 41(高)mm	

約 1.4m カールタイプ

約 0.9kg

ケーブル長

重量
第4章 バーコードスキャナ

バーコードスキャナを安全にお使いいただくために設置・ご使用の際には以下の注意事項を守って ご使用ください。

- 製品を水などで濡らさないでください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- コードを強く曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。 ケーブルの断線、被膜破れが発生し、故障、火災、感電の原因になります。
- □ お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- 製品の分解・改造はしないでください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- コネクタは指定製品以外に差し込まないでください。 誤った配線をすると故障や火災の原因になります。
- レーザー光を発射する機器の場合は、ビームをのぞき込まないでください。
 失明の原因になります。

注意:

- □ SASPORT本体への接続は、本体の電源をオフにしてから行ってください。*1
- 必ず定格電圧内でご使用ください。
 入力電圧を間違えますと、故障の原因になります。
- □ 直接日光の当たるところや、暖房器具の近くでの使用は避けてください。 故障の原因になります。
- テレビやラジオ、強い磁界や電波を発生する装置の近くでの使用は避けてください。 故障の原因になります。
- 読み取りヘッドには光学部品を内蔵していますので落としたり、ぶつけたりしないでください。
 故障の原因になります。
- コネクタの抜き差しは、コネクタ部を持って行い、コードを持って行わないでください。 断線などの故障の原因になります。
- ケーブルを持ってスキャナを振り回すことは絶対にしないでください。 断線などの故障の原因になります。
- コネクタのピンは、指で触るなどして汚したり、短絡させたりしないでください。 故障の原因になります。
- □ 指定されている目的以外の使用をしないでください。
- *1 USB I/F 機種 (DM-S162) を除く。

🕲 注記:

- スキャナの窓を定期的にクリーニングしてください。
 ・乾いた柔らかい布でからぶきし、絶対に水洗いしないでください。
 ・シンナー、ベンジンなどの揮発性の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。
- □ 色紙、印刷状態の悪いラベルの時に、読み取りにくいことがあります。スキャナの後部を 持ち上げることにより、読み取り率が向上します。
- □ 次のようなバーコードラベルは読み取れない場合があります。
 - ・水滴や、霜が表面についているラベル
 - ・汚れ、かすみ、にじみのあるラベル
 - ・スキャナの読み取り窓より大きいラベル
 - ・バーコードの色が赤や黄色のラベル
- 同じバーコードラベル又は同じキャラクタのバーコードラベルを続けて読み取る場合は、
 一度読み取りヘッドをバーコードラベルから離して再度バーコードラベルに近づけて読み
 取らせてください。

バーコードスキャナの概要説明

バーコードスキャナの種類

DM-S160-011	ハンディタイプ	RS-232 I/F	ZE-84RMFME	松下 製
DM-S160-012	ハンディタイプ	RS-232 I/F	ZE-84RMFPE	松下 製
DM-S160-031	ハンディタイプ	RS-232 I/F	ZE-84RMFPE1	松下 製
DM-S161-011	ハンディタイプ	キーボード I/F	ZE-845MYMCC2	松下 製
DM-S161-012	ハンディタイプ	キーボード I/F	ZE-845MYP	松下 製
DM-S162-061	ハンディタイプ	USB I/F	OPL-6735	オプトエレクトロニクス製
DM-S162-062	ハンディタイプ	USB I/F	OPL-5850	オプトエレクトロニクス製

RS-232 I/F (COM ポート) への +5V 供給 (DM-S160)

DM-S160 をご使用の場合は、+5V の電源の供給が必要です。 ケーブルを接続する際には、接続させる機種ごとに SASPORT 内部のジャンパの設定、または BIOS 設定を変更後、ケーブルを接続してください。 機種ごとの設定については、2 章を参照してください。

⚠ 注意

ジャンパ設定の変更後は、設定変更した COM ポートにバーコードスキャナ以外の機器を 接続しないでください。接続する機器が破損する恐れがあります。 再度、バーコードスキャナ以外の機器を接続する場合は、ジャンパ設定を元に戻してから ご使用ください。

DM-S160

概要

本機は、WPC シンボルとして JAN、EAN、UPC (A、E) コードと産業用シンボルとして NW-7 (CODA BAR)、CODE39、ITF (2 of 5 Interleaved)、STF (2 of 5 Standard)、CODE93 及び CODE128 とを自動識別して読み取るデコーダ内蔵のハンディタイプのバーコードスキャナです。 SASPORT の RS-232C インタフェースに接続します。

■ DM-S160 には以下の種類があります。

DM-S160-011 ケーブル長 2m DM-S160-012 ケーブル長 2m 軽量、機能改善品 DM-S160-031 ケーブル長 3m 軽量、機能改善品

■ DM-S160-012/031 には以下の特長があります。

省電力化のため、LED 光源のフラッシング制御を行っています。 本体が軽量化されており、疲労が軽減されます。 外部からの光に強い設計になっています。 サプリメンタルコード付き WPC シンボルの読み取り(CODE128(EAN128 対応),W)が可能です。 定期刊行物コード(491 から始まる JAN13+5 桁のサプリメンタルコード付加)はオプション設定で 読み落とし防止が追加されています。

梱包内容

口本体

- □ 保証書
- □「本製品をお使いいただくために」
 シート
 □「PARAMETER SETTING」
 マニュアル

各部の名称

本機は、デコーダ内蔵の読み取りヘッド、I/O コネクタ及びケーブルから構成されています。



DM-S160の接続

■操作手順-

- **1** SASPORT の電源をオフします。
- 2 接続する SASPORT 内部のジャンパ設定 (SASPORT URBAN は BIOS 設定)を変更して、 接続する COM ポートに +5V が出力されるように設定します。
- 3 SASPORT cubiell / cubiell で COM5 または COM6 を使用する場合は、BIOS 設定を変更します。 BIOS メインメニューの「INTEGRATED PERIPHERALS」-「Onboard Serial Port 5」また

は「Onboard Serial Port 6」に I/O アドレスおよび IRQ 番号を設定してください。

🛇 注記:

設定手順の詳細については、第2章「SASPORT の構成 -SASPORT cubieIII」/ 「SASPORT の構成 -SASPORT cubieII」の「周辺機器の接続」-「COM5、COM6 の設定手 順」項を参照してください。

- **4** バーコードスキャナのRS-232Cコネクタを、操作2で設定した COM ポートに接続します。
- 5 SASPORT の電源をオンします。ご使用のアプリケーションソフトの起動を確認後、バー コードの読み取りを開始してください。
 - 🕲 注記:

操作2で設定した COM ポートに、別の機器を接続して使用する場合は、+5V が出力 されないように設定を変更してください。

DM-S160の設定

■操作手順-

- **1** SASPORT の電源をオンします。
- 2 15 秒以内にパラメータ設定モード起動用特殊コード(同梱の「PARAMETER SETTING」 マニュアルに記載)を3つ読み取ると、ブザーが5回鳴ります。
- 3 各パラメータ設定用コードを読み取ります。
- 4 設定終了コードを読み取ると、ブザーが5回鳴り、設定値を書き込みます。その後設定された内容で通常動作を開始します。
- **5**「PARAMETER SETTING」マニュアルのデフォルト設定コードを読み取ると、設定値をデフォルトに戻します。

機能の説明

- RS-232C の設定
 - 通信条件

項目	出荷仕様	オプション仕様					
同期方式	調歩同期(非同期)	期(非同期)					
伝送コード	JIS X0201、ASCII	X0201、ASCII					
データビット	7ビット	7 ビット、または 8 ビット					
パリティービット	奇数	なし、奇数、または偶数					
ストップビット	2ビット	1 ビット、または 2 ビット					
伝送速度	9600bps	300、600、1200、2400、4800、9600、 または 19200bps					

● 通信フォーマット

詳細の設定は、製品に添付されている「PARAMETER SETTING」マニュアルをご覧ください。

	ID	桁	数		
ヘッダ (プリアンブル)	(種別 コード)	n1	n2	読み取りデータ	ターミネータ (ポストアンブル)

・ヘッダ

ヘッダは、"なし"、"STX"、"ESC"、または全 ASCII コードからの任意の1 キャラクタ(1 バイト)を選 択できます。デフォルトでは、"なし"に設定されています。

・ID (種別コード)

バーコード体系を認識するためのキャラクタです。IDの転送は"シンボル種別コードの付加"により要否を選択できます。デフォルトでは、転送しない設定になっています。

D キャラクタの初期値は下表の通りです。	ID キャラクタは変更できます。
----------------------	------------------

バーコード体系	ID
UPC-A	А
UPC-E	E
EAN-13/JAN-13	F
EAN-8/JAN-8	FF
2 of 5 Standard	Н

バーコード体系	ID
2 of 5 Interleaved	I
NW-7	N
CODE39	М
CODE93	L
CODE128	К
CODE128(EAN128 対応)	W *1

*1 DM-S160-012/031 のみ使用可能

・桁数

バーコードデータの桁数を2桁(2バイト)で示します。UPC / EAN コードの場合、桁数は省略されます。桁数の転送の要否を選択できます。デフォルトでは、転送しない設定になっています。

n1:10 の位(0-9)

n2:1 の位(0-9)

・ターミネータ

"ETX"、"CR"、"CR LF"、または全 ASCII コードから任意の1キャラクタ(1バイト)あるいは2キャ ラクタ(2バイト)を選択できます。デフォルトでは、"CR"を送信します。

● データ転送手順

・読み取りデータフォーマット

バーコード	読み取りデータ(送信キャラクタ)							桁数						
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	
UPC-A	S	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	C/D		12 桁
UPC-E	X1	X2	Х3	X4	X5	X6	C/D							7 桁
EAN-13/JAN-13	Y1	Y2	X1	X2	Х3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	C/D	13 桁
EAN-8/JAN-8	Y1	Y2	X1	X2	Х3	X4	X5	C/D						8桁

S : ナンバーシステム

Y : カントリーフラグ

C/D :チェックデジット

X :データ

• 2 of 5 Interleaved, 2 of 5 Standard

2 of 5 Interleaved のデータ桁数は 4 ~ 52 桁、2 of 5 Standard のデータ桁数は 3 ~ 31 桁です。 スタートコードの次のキャラクタからストップコードの前のキャラクタまで順に転送します。スタート、 ストップコードは転送しません。

• NW- 7 (CODABAR)

データ桁数は、スタート・ストップコードを含め3~36桁です。 スタート・ストップコードの転送要否を選択できます。スタート・ストップコードは"a/b/c/d"、"A/B/ C/D" のいずれかを選択できます。デフォルトでは、"a/b/c/d" を転送する設定になっています。

• CODE 39

データ桁数は、スタート・ストップコードを除き1~27桁です。 スタート・ストップコードの転送要否を選択できます。スタート・ストップコードは"*"(アスタリス ク)です。デフォルトでは、転送しない設定になっています。

· CODE 93

データ桁数は、1~38桁です。 スタートコードとストップコード、およびチェックデジットC/Dは、送信しません。 読み取りデータの1桁目がスペースの場合、読み取りデータのバッファリング・連結は行いません。

• CODE 128

データ桁数は、1~31桁です。 スタートコードとストップコード、およびチェックデジットC/Dは、送信しません。 スタートコードに続くデータの第3キャラクタ目以降のファンクションコード1(FNC1)は、GS(1Dh) に変換して送信します。 バーコードのファンクションコード2~4(FNC2~4)は、無視し送信しません。

第1および第2キャラクタ目のファンクションコード1(FNC1)は、送信しません。(EAN128対応)

SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

■その他の機能

● 逆配置読み取り機能

バーコードラベルに対してスキャナ開口部を左右逆に配置しても読み取ることができます。

● 二度読み防止機能

バーコードを正しく読み取った後は、同一バーコードに対しては、二度読み防止機能が働きま す。二度読み防止機能は、スキャナをバーコードから離すことにより解除されます。

● 2 of 5 Interleaved 及び Standard のバーコードラベルによる読み取り許可桁数の自動設定

ITF および STF シンボルでは、スキャナ読み取り口がバーコードラベルからはみ出て、斜めに 読み取り操作が行われた場合等に、桁落ちが発生することがあります。これはバーコードシン ボルに起因するものです。 桁落ち防止のため、ITF および STF シンボルについては、読み取り桁数を自動設定することが できます。

● 読み取り許可最小桁数、および読み取り許可最大桁数の設定 NW-7、CODE39、ITF、STF、CODE93、および CODE128 のシンボルに対しては、読み取り許 可最小桁数、および読み取り許可最大桁数を設定することができます。 デフォルトでは、この機能は設定されていません。

DM-S160の使い方

■操作手順-

- 読み取りヘッドを持ちバーコードラベルに近づけます。
 読み取り窓の中心と、バーコードラベルの中心を合わせるようにします。
 読み取りヘッドをバーコードラベルの高さ方向に上から下へゆっくりと移動させると、読み取りやすくなる場合があります。
- **2** バーコードラベルを読み取り、SASPORT にデータを送信した後、読み取りヘッドの表示 LED が点灯し、ブザーが鳴ります。

仕様

項目		011 仕様	012 仕様	031 仕様		
バーコード	バーコードの	JAN/EAN 8、13 UPC-A、E				
シンボル	種類	CODE39、CODE9	3、CODE128、			
		ITF (2 of 5)、STF	(2 of 5)			
		NW-7(CODA BAR)	1			
		-	CODE128(EAN12	.8)		
読み取り性能	PCS 值	0.45 以上				
	外乱光	3000Lux 以下	10000Lux 以下 (密	10000Lux 以下 (密着時)		
	読み取り距離	0 ~ 18mm	0 ~ 25mm *1			
	読み取り確認	表示 LED :点灯				
		ブザー音 :有り				
インタフェース	·	RS-232C				
電源		DC+5V \pm 5%				
消費電流		MAX 95mA	ブザー音なし:120mA			
(入力電源電圧 +5	5.0VDC 時)	突入電流 1A	ブザー音あり:200mA			
			突入電流 0.5A			
寸法(奥行×幅×	:厚さ)mm	158 × 72 × 55	150.4 × 72 × 53.5			
ケーブル長		2m	2m	3m		
重量	本体	約 120g	約 70g	約 70g		

*1 モジュール寸法 1.0 倍 (JAN)、PCS 値 0.9 以上 (スペース反射率 85% 以上)、周囲照度 400Lux の場合

インタフェース仕様

本機は RS-232C 通信インタフェースを備えています。コネクタ部のピン配置は次の通りです。

コネクタピン	信号名	入出力	機能
1	Vcc	入力	スキャナへの電源供給
2	TXD	出力	スキャナからの送信データ
3	RXD	入力	スキャナへの受信データ
4	(DTR)	—	コネクタ内で接続(6pin)
5	SG	_	シグナルグランド
6	(DSR)	—	コネクタ内で接続(4pin)
7	CTS	入力	送信可(Host Ready)
8	RTS	出力	送信要求
フレーム	FG		接地する

SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

トラブルシューティング

Q1スキャナの LED が光らない。

- A1-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。コネクタのネジを締めてください。
- A1-2 LED が光らない設定になっていないか、確認してください。
- A1-3 SASPORT のジャンパ設定または BIOS 設定で、COM ポートに +5V が出力されているか確認 してください。
- A1-4 別の PC などに接続して LED が光るか確認してください。

Q2スキャナからの入力ができない。

- A2-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。コネクタのネジを締めてください。
- A2-2 SASPORT の設定を確認してください。(COM ポートの設定など)
- A2-3 OPOS、アプリケーションの設定を確認してください。

Q3バーコードの読み取りが出来ない。

- A3-1 SASPORT がサスペンドモードや省電力モードになっていると、データの読み取りが出来ない場合があります。フルオンモードに設定してください。
- A3-2 読み取るバーコードが " 読み取り許可 " 設定になっていることを確認してください。"C/D 照 合する " の設定になっている場合は、C/D 付きのラベルのみ読み取り可能です。C/D の設定 を確認してください。

Q4パラメータ設定が行えない、パラメータ設定が有効とならない。

A4-1 パラメータ設定を行った後は、"設定終了ラベル"を読み取ることでメモリに書き込まれま す。設定終了ラベルを読み取らずに、設定ラベル以外のラベルの読み取りをしたり、電源を オフすると、変更したパラメータ内容は破棄されます。

DM-S161

概要

本機は、WPC シンボルとして JAN、EAN、UPC (A、E) コードと産業用シンボルとして NW-7 (CODA BAR)、CODE39、ITF (2 of 5 Interleaved)、STF (2 of 5 Standard)、CODE93 及び CODE128 とを自動識別して読み取るデコーダ内蔵のハンディタイプのバーコードスキャナです。 SASPORT のキーボードインタフェースに接続します。

■ DM-S161 には以下の種類があります。

DM-S161-011 ケーブル長 1.5m DM-S161-012 ケーブル長 1.5m 軽量、機能改善品

■ DM-S161-012 には以下の特長があります。

省電力化のため、LED 光源のフラッシング制御を行っています。 本体が軽量化されており、疲労が軽減されます。 外部からの光に強い設計になっています。 サプリメンタルコード付き WPC シンボルの読み取り(CODE128(EAN128 対応),W)が可能です。 定期刊行物コード(491 から始まる JAN13+5 桁のサプリメンタルコード付加)はオプション設定で 読み落とし防止が追加されています。

梱包内容

□ 本体

- □ 保証書
- □ 「本製品をお使いいただくために」 シート
 □ 「PARAMETER SETTING」 マニュアル

各部の名称

本機は、デコーダ内蔵の読み取りヘッド、Y ケーブルから構成されています。



DM-S161の接続

■操作手順-

- **1** SASPORT の電源をオフします。
- 2 Yケーブルのミニ DIN (DIN)メス側とキーボードのミニ DIN (DIN) コネクタを接続します。
- **3** Y ケーブルのミニ DIN (DIN) オス側を SASPORT のキーボードポートに接続します。
- 4 SASPORTの電源をオンします。SASPORT 側がキーボード入力可能となるまでお待ちく ださい。ご使用のアプリケーションソフトの起動を確認後、バーコードの読み取りを開始 してください。

\land 注意

- ・Y ケーブル分岐部分に大きな負荷がかからないよう、分岐部分は SASPORT 本体、ディ スプレイ等に固定してご使用ください。
- ・ミニ DIN(DIN) コネクタ接続時は確実に奥まで挿入してください。

DM-S161 の設定

■操作手順--

- 1 SASPORTの電源をオンします。
- **2** 15 秒以内にパラメータ設定モード起動用特殊コード(同梱の「PARAMETER SETTING」 マニュアルに記載)を3つ読み取ると、ブザーが5回鳴ります。
- 3 各パラメータ設定用コードを読み取ります。

🖗 注記:

必要に応じて国別設定を行ってください。工場出荷時には INTERNATIONAL に設定され ています。

- 4 設定終了コードを読み取ると、ブザーが5回鳴り、設定値を書き込みます。その後設定さ
 れた内容で通常動作を開始します。
- 5 「PARAMETER SETTING」マニュアルのデフォルト設定コードを読み取ると、設定値をデフォルトに戻します。

🖗 注記:

デフォルト設定値と、工場出荷時設定値が異なるパラメータがあります。上記操作 にて、設定値をデフォルトに戻した場合には、「PARAMETER SETTING」マニュアルに 従い、適切なパラメータ値を再度設定してください。 (例) ・通信条件の設定 ・インターキャラクターディレイ など

🖗 注記:

外付けキーボードとスキャナを同時に使用する場合は、「キーボード I/F 設定」パラ メータを必ず "デスクトップ"に設定してください。デフォルトは、"デスクトッ プ"に設定されています。

機能の説明

■ PC/AT 用キーボードインターフェイス

● 通信条件

項目	出荷仕様
同期方式	クロック同期方式
スタートビット	1ビット
データビット	8ビット
パリティービット	奇数パリティ
ストップビット	1 ビット

● 通信フォーマット

詳細の設定は、製品に添付されている「PARAMETER SETTING」マニュアルをご覧ください。

ヘッダ (プリアンブル)	ID (種別 コード)	桁 n1	数 12	読み取りデータ	ターミネータ (ポストアンブル)
-----------------	-------------------	---------	---------	---------	---------------------

・ヘッダ

ヘッダは、"なし"、または任意の1バイトコードを選択できます。デフォルトでは、"なし"に設定されています。

・ID (種別コード)

バーコード体系を認識するためのキャラクタです。ID の転送は"シンボル種別コード"により要否を選択 できます。デフォルトでは、転送しない設定になっています。 ID キャラクタの初期値は下表の通りです。ID キャラクタは変更できます。

バーコード体系	ID
UPC-A	А
UPC-E	E
EAN-13/JAN-13	F
EAN-8/JAN-8	FF
2 of 5 Standard	Н

バーコード体系	ID
2 of 5 Interleaved	I
NW-7	Ν
CODE39	М
CODE93	L
CODE128	К
CODE128(EAN128 対応)	W *1

*1 DM-S161-012 のみ使用可能

・桁数

バーコードデータの桁数を2桁(2バイト)で示します。UPC / JAN / EAN コードには設定されません。桁数の転送の要否を選択できます。デフォルトでは、転送しない設定になっています。

n1:10の位 (0-9)

n2:1の位 (0-9)

・ターミネータ

"CR"、"HT"、または全 ASCII コードから任意の1キャラクタ(1バイト)あるいは2キャラクタ(2バ イト)を選択できます。デフォルトでは、"CR"を送信します。

● データ転送手順

・読み取りデータフォーマット

バーコード	読み取りデータ(送信キャラクタ)						桁数							
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	
UPC-A	S	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	C/D		12 桁
UPC-E	X1	X2	X3	X4	X5	X6	C/D							7 桁
EAN-13/JAN-13	Y1	Y2	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	C/D	13 桁
EAN-8/JAN-8	Y1	Y2	X1	X2	X3	X4	X5	C/D						8 桁

S : ナンバーシステム

Y : カントリーフラグ

C/D :チェックデジット

X :データ

\cdot 2 of 5 Interleaved \sim 2 of 5 Standard

2 of 5 Interleaved のデータ桁数は 4 ~ 52 桁、2 of 5 Standard のデータ桁数は 3 ~ 31 桁です。 スタートコードの次のキャラクタからストップコードの前のキャラクタまで順に転送します。スタート、 ストップコードは転送しません。

• NW- 7 (CODABAR)

データ桁数は、スタート・ストップコードを含め3~36桁です。 スタート・ストップコードの転送要否を選択できます。スタート・ストップコードは"a/b/c/d"、"A/B/ C/D" のいずれかを選択できます。デフォルトでは、"a/b/c/d" を転送する設定になっています。

• CODE 39

データ桁数は、スタート・ストップコードを除き1~27桁です。 スタート・ストップコードの転送要否を選択できます。スタート・ストップコードは"*"(アスタリス ク)です。デフォルトでは、転送しない設定になっています。

• CODE 93

データ桁数は、1~38桁です。 スタートコードとストップコード、およびチェックデジット C/D は、送信しません。 読み取りデータの1桁目がスペースの場合、読み取りデータのバッファリング・連結は行いません。

• CODE 128

データ桁数は、1~31桁です。 スタートコードとストップコード、およびチェックデジット C/Dは、送信しません。 バーコードのファンクションコード1~4 (FNC1~4)は、無視し送信しません。

■その他の機能

● 逆配置読み取り機能

バーコードラベルに対してスキャナ開口部を左右逆に配置しても読み取ることができます。

● 二度読み防止機能

バーコードを正しく読み取った後は、同一バーコードに対しては、二度読み防止機能が働きま す。二度読み防止機能は、一度バーコードを離すことにより解除されます。

● 2 of 5 Interleaved 及び Standard のバーコードラベルによる読み取り許可桁数の自動設定

ITF および STF シンボルでは、スキャナ読み取り口がバーコードラベルからはみ出て、斜めに 読み取り操作が行われた場合等に、桁落ちが発生することがあります。これはバーコードシン ボルに起因するものです。 桁落ち防止のため、ITF および STF シンボルについては、読み取り桁数を自動設定することが できます。

● 読み取り許可最小桁数、および読み取り許可最大桁数の設定

NW-7、CODE39、ITF、STF、CODE93、および CODE128 のシンボルに対しては、読み取り許可最小桁数、および読み取り許可最大桁数を設定することができます。 読み取り許可最小桁数と読み取り許可最大桁数を同じ値に設定すると、設定された桁数のみ読み取ります。

デフォルトでは、この機能は設定されていません。

DM-S161の使い方

■操作手順-

- 1 読み取りヘッドを持ちバーコードラベルに近づけます。 読み取り窓の中心と、バーコードラベルの中心を合わせるようにします。 読み取りヘッドをバーコードラベルの高さ方向に上から下へゆっくりと移動させると、読み取りやすくなる場合があります。
- **2** バーコードラベルを読み取り、SASPORT にデータを送信した後、読み取りヘッドの表示 LED が点灯し、ブザーが鳴ります。



キーボード上のキーを押下した状態でのバーコードの読み取りや、スキャナデータ送信中 のキーボードのキーの押下は、絶対に行わないでください。スキャナが読み込んだデータ を正常に送信できません。

必ず半角英数字モードでご使用ください。半角英数字モード以外で使用すると、正常にデー タを送信できません。

🔍 *注記*

キーボードファーム機能が Disable になっていると使用できません。POS キーボードの プログラム等でキーボードファームを Disable にした時は、必ず Enable に設定してから 使用してください。

仕様

項目		011 仕様	012 仕様		
バーコード シンボル	バーコードの種類	JAN/EAN 8、13 UPC-A、E CODE39、CODE93、CODE128、 ITF(2 of 5)、STF(2 of 5) NW-7(CODA BAR)			
		-	CODE128(EAN128)		
キーボード互換		JAPANESE、US、UK、GERMAN、FRENCH1*1、 FRENCH2*2、FRENCH3*3、INTERNATIONAL*4			
読み取り性能	PCS 値(白)	0.45 以上			
	外乱光	3000Lux 以下	10000Lux 以下 (密着時)		
	読み取り距離	0 ~ 18mm	0 ~ 25mm *5		
	読み取り確認	表示 LED : 点灯 ブザー音 : 有り			
インタフェース		キーボード			
電源		$DC+5V \pm 5\%$			
消費電流 (入力電源電圧 +5.0VDC 時)		MAX 80mA 突入電流 0.5A	ブザー音なし:120mA ブザー音あり:200mA 突入電流 0.5A		
寸法(奥行×幅×厚)	さ)mm	$158 \times 72 \times 55$ $150.4 \times 72 \times 53.5$			
ケーブル長		約 1.5m カールタイプ			
重量	本体	約 120g	約 77g		

*1 フランス仕様、テンキー側数字キー仕様

*2 フランス仕様

- *3 フランス仕様、キーボード ID=120
- *4 工場出荷時の設定。各国のキーボードに接続可能です。キーボードの CAPS 状態に関係なく読み取りデータ を送信可能です。他のモードと比較して送信データが多いため、送信速度を早くしたいときは、国別設定を してください。本モードは MS-DOS 固有の機能により実現しています。従って他の OS では正常動作しない ことがあります。本モードは ALT キーに何らかの機能が割り当てられているアプリケーションでは正常動作 しません。
- *5 モジュール寸法 1.0 倍 (JAN)、PCS 値 0.9 以上 (スペース反射率 85% 以上)、周囲照度 400Lux の場合

トラブルシューティング

- Q1スキャナの LED が光らない。
- A1-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。コネクタを奥まで確実に挿入してください。
- A1-2 LED が光らない設定になっていないか、確認してください。
- A1-3 別の PC などに接続して LED が光るか確認してください。
- Q 2 SASPORT の電源をオンすると、"KEYBOARD ERROR" または "ERROR 301" と表示される
- A2-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。コネクタを奥まで確実に挿入してください。
- Q3スキャナまたは外付けキーボードからの入力ができない。
- A3-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。コネクタを奥まで確実に挿入してく ださい。
- Q4バーコードの読み取りが出来ない。
- A4-1 SASPORT がサスペンドモードや省電力モードになっていると、データの読み取りが出来ない場合があります。フルオンモードに設定してください。
- A4-2 読み取るバーコードが " 読み取り許可 " 設定になっていることを確認してください。"C/D 照 合する " の設定になっている場合は、C/D 付きのラベルのみ読み取り可能です。C/D の設定 を確認してください。
- Q5桁落ちが発生する。
- A5-1 インターキャラクターディレイの設定を現在の設定内容よりも大きな値とします。 例 DELAY3 → DELEY5
- Q6スキャナから SASPORT ヘデータ転送中、SASPORT のブザーが鳴動する。
- A6-1 インターキャラクターディレイの設定を現在の設定内容よりも大きな値とします。 例 DELAY3 → DELEY5
- Q7スキャナの読み取り完了ブザーは鳴動するが、SASPORT 側にデータが表示されない。
- A7-1 国別設定を変更します。INTERNATIONAL モードではデータを認識できないアプリケー ションが存在します。この場合は、ご使用のキーボードタイプに設定してください。
- Q8外付けキーボード使用時に、大文字(小文字)のデータを読み取ったが、小文 字(大文字)データが表示される。
- A8-1 キーボードの CAPS 状態の設定を確認します。ON 状態でご使用の場合は "ON" を OFF 状態 でご使用の場合は "OFF" を設定してください。
- Q9数字読み取り時に文字化けが発生する。例) 「1234」→ 「!"#\$」
- A9-1 SASPORT 側がシフトブレークコード受信時にエラーとなりました。外付けキーボードのシ フトキーを押してください。この現象は、スキャナデータ読み取り時に外付けキーボードの シフトキーを押すと発生します。スキャナ読み取り時には、キーボード入力をしないでくだ さい。

- Q 10 外付けキーボード使用時に、読み取りデータがありえないデータになったり、 データが欠落する。
- A10-1 キーボードからの入力データがあると、データエラーが発生することがあります。スキャナ 読み取り時には、キーボード入力をしないでください。
- Q11読み取りデータがおかしい。
- A11-1 数キャラクタがおかしい場合は、国別設定を確認してください。ご使用のキーボードとス キャナ設定が違うと、正常にデータを送信できません。
- A11-2 全キャラクタの表示がおかしい場合は、コードセットを変更してください。デフォルトでは コードセット2に設定されています。

Q12パラメータ設定が行えない、パラメータ設定が有効とならない。

A12-1 パラメータ設定を行った後は、"設定終了ラベル"を読み取ることでメモリに書き込まれま す。設定終了ラベルを読み取らずに、設定ラベル以外のラベルの読み取りをしたり、電源を オフすると、変更したパラメータ内容は破棄されます。

DM-S162

概要

本機は、WPC シンボルとして JAN、EAN、UPC (A、E) コードと産業用シンボルとして NW-7 (CODA BAR)、CODE39、2 of 5 を自動識別可能、また CODE93、CODE128、IATA、MSI/Plessey を 読み取り可能な、デコーダ内蔵のハンディタイプのバーコードスキャナです。 読み取り操作は、トリガスイッチを軽く押して行うことができます。 SASPORT の USB インタフェースに接続しますが、USB インタフェースは、Windows 2000 にて対応 しています。SASPORT の Windows NT では対応していません。

警告

レーザー光: クラス 2 レーザー製品 ビームをのぞき込まないこと 最大出力 1mW 波長 650nm

種類

DM-S162 には以下の種類があります。 □ DM-S162-061 □ DM-S162-062

梱包内容

本体
 保証書
 「本製品をお使いいただくために」 シート
 共通取扱説明書
 フェライトコア (大) SASPORT 電源ケーブル取付用 *1
 " (小) DM-S162 ケーブル取付用 *1
 *1 DM-S162-061 専用

各部の名称

本機は、デコーダ内蔵の読み取りヘッド、USB コネクタ及びケーブルから構成されています。



DM-S162の接続

■操作手順-

- **1** SASPORT の電源をオフします。(DM-S162-062の場合は手順 2,3 は行わず、手順 4 を行ってください)
- **2** フェライトコア(大)をSASPORTの電源ケーブルに接続します。



/!】 注意: フェライトコアは破損しやすいため、落下させたり、衝撃を加えたりしない でください。

🕲 注記

フェライトコアは、電源ケーブルのシステムに近い所に装着します。



①フェライトコアのロックを外して開きます。

②フェライトコアの溝に合わせて電源ケーブルをはめ込みます。

③フェライトコアを閉じます。ロックが確実にはめ込まれていることを確認します。



①フェフイトコアのロックを外して開きます。
 ②フェライトコアの溝に合わせてケーブルをはめ込みます。
 ③フェライトコアを閉じます。ロックが確実にはめ込まれていることを確認します。

- **4** バーコードスキャナの USB コネクタを、SASPORT の USB ポートに接続します。
- 5 SASPORTの電源をオンします。トリガスイッチを押して、レーザー光が出ることを確認します。

DM-S162の設定

■操作手順-

- 1 SASPORTの電源をオンします。
- **2** 共通取扱説明書から各種の設定を行います。トリガスイッチを押し、USB 接続スキャンの 設定開始コードを読み取ります。
 - 🛇 注記:

設定開始コードを読み取ると、ブザーが連続して鳴りレーザー光が照射されます。 その間に各設定コードおよび設定終了コードを読み取ってください。

- **3** 読み取るバーコードの選択、読み取り条件の設定、ブザー音の設定など、各設定に対応したコードを読み取ります。
- 4 設定終了コードを読み取ります。
- 5 設定終了コードを読み取ると、ブザーが止まり、設定値を書き込みます。その後、設定された内容で通常動作を開始します。
 - 🖗 注記:

初期設定コードを読み取ると、機能が初期値になります。

設定終了コードを読み取る前に電源をオフにしないでください。

機能の説明

■ バーコード読み取り条件の設定

詳細の設定は、製品に添付されている共通取扱説明書をご覧ください。 ・JAN/EAN

チェックデジットの有無を選択できます。デフォルトは、「チェックデジットを転送する」設定です。

• UPC-A

次のいずれかを選択できます。デフォルトは、「13桁で転送する」設定です。

「13 桁で転送する」 「12 桁で転送する(先頭の "0" なし)」 「12 桁で転送する(チェックデジットなし)」 「11 桁で転送する(先頭の "0" およびチェックデジットなし)」

• UPC-E

次のいずれかを選択できます。デフォルトは、「8桁で転送する」設定です。 「8桁で転送する」 「7桁で転送する(先頭の"0"なし)」 「7桁で転送する(チェックデジットなし)」 「6桁で転送する(先頭の"0"およびチェックデジットなし)」

• CODE39

スタート・ストップキャラクターの転送要否を選択できます。スタート・ストップキャラクターは"*" (アスタリスク)です。デフォルトは、「転送する」設定です。 チェックデジットの有無を選択できます。デフォルトは、「チェックデジットを計算しない」設定です。

• NW- 7 (CODABAR)

スタート・ストップキャラクターの転送要否を選択できます。スタート・ストップキャラクターは abcd/ abcd、ABCD/ABCD、abcd/tn*e、ABCD/TN*E のいずれかを選択できます。デフォルトは、「abcd/abcd を転送する」設定です。

チェックデジットの有無を選択できます。デフォルトは、「チェックデジットを計算しない」設定です。

・2 of 5 (インダストリアル 2 of 5、インターリブド 2 of 5) チェックデジットの有無を選択できます。デフォルトは、「チェックデジットを計算しない」設定です。 ■その他の設定

● 読み取り方式

単発読み: トリガスイッチを押すと読み取りを開始し、バーコードを読み取ると待機状態 になります。

複数読み: トリガスイッチを押すと読み取りを開始し、バーコードを読み取り、さらに読 み取りを継続します。複数のバーコードを連続して読み込むことができます。 ただし同一ラベルは連続して読み取りません。バーコードを読み取らない状態 で一定時間を過ぎると、待機状態になります。

● 読み取り可能時間

指定した時間内にバーコードを読み取れない場合、自動的に読み取り動作を停止します。デフォ ルトでは2秒に設定されています。

● 読み取り確認ブザー

バーコード読み取り時のブザーの有無、時間、音量を設定できます。

● 読み取り確認 LED

バーコード読み取り時の LED の点灯の有無、点灯時間を設定できます。

DM-S162の使い方

■操作手順-

- 1 本体のバーコードラベル読み取り窓をバーコードラベルに近づけ、トリガスイッチを押します。 照射されるレーザー光(赤色)をバーコードラベルの中心に合わせるようにします。 読み取りヘッドをバーコードラベルの高さ方向に上下にゆっくりと移動させると、読み取りやすくなる場合があります。
- 2 バーコードラベルを読み取り、SASPORT にデータを正常に送信すると、読み取り確認 LED(緑色)が点灯し、ブザーが鳴ります。

仕様

項目	仕様	DM-S162-061	DM-S162-062			
バーコードシンボル バーコードの種類		JAN/EAN 8、13、UPC-A、E、CODE39、 NW-7(CODA BAR)、2 of 5 の自動識別可能 および CODE93、CODE128、IATA、MSI/ Plessey および書籍コードの読み取り設定可能				
	読み取り確認	表示 LED :点灯 ブザー音 :有り/無し	<i>、</i> 設定可能			
読み取り性能	最小分解能	0.15mm	0.127mm			
	最小 PCS 値 (白)	0.45				
光源		赤色光半導体レーザー 650 ± 10 nm				
走査速度		100 スキャン/秒				
インタフェース		USB 1.1				
電源	-	DC+5V				
消費電流 読み取り時 待機時		100mA MAX 20mA MAX	150mA 40mA			
寸法(奥行×幅×高)mm		159.0 × 56.3 × 31.5	160.5 × 70.0 × 50.5			
ケーブル長		約 1.5m				
重量		約 120g (ケーブル 含まず)	約 90g (ケーブル含 まず)			
レーザー安全規格		JIS-C-6802				
防滴規格		JIS 防滴 II 形準拠				
防塵規格		-	JIS Z 8901-1984 準拠			

トラブルシューティング

Q1スキャナのレーザー光が出ない。

- A1-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。
- A1-2 レーザー光が出ない設定になっていないか、確認してください。
- A1-3 USB ハブに接続している場合は、接続している機器の電源容量が越えていないか確認してください。
- A1-4 別の PC などに接続してレーザー光が出るか確認してください。

Q2スキャナからの入力ができない。

- A2-1 SASPORT のコネクタの接続状態を確認してください。
- A2-2 OPOS、アプリケーションの設定を確認してください。

Q3バーコードの読み取りが出来ない。

- A3-1 SASPORT がサスペンドモードや省電力モードになっていると、データの読み取りが出来ない場合があります。フルオンモードに設定してください。
- A3-2 読み取るバーコードが "読み取り許可 "設定になっていることを確認してください。

Q4パラメータ設定が行えない、パラメータ設定が有効とならない。

A4-1 パラメータ設定を行った後は、"設定終了ラベル"を読み取ることでメモリに書き込まれま す。設定終了ラベルを読み取らずに、設定ラベル以外のラベルの読み取りをしたり、電源を オフすると、変更したパラメータ内容は破棄されます。 SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

第5章 キャッシュドロワ

キャッシュドロワを安全にお使いいただくために設置・ご使用の際には以下の注意事項を守ってください。

- 製品を水などで濡らさないでください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。 故障や火災、感電の恐れがあります。
- □ ケーブルを強く曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。 ケーブルの断線、被膜破れが発生し、故障、火災、感電の原因になります。
- □ お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- □ 製品の分解・改造はしないでください。 ケガや故障、火災、感電の原因になります。
- コネクタは指定製品以外に差し込まないでください。 誤った配線をすると故障や火災の原因になります。

注意:

- □ SASPORT 本体への接続は、本体の電源をオフにしてから行ってください。
- □ 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所)に設置しないでください。 キャッシュドロワが落ちたり、倒れたりして、ケガをする恐れがあります。
- □ 上下逆転姿勢、側面倒立姿勢にて設置しないでください。 故障の原因になります。
- 落としたり、ぶつけたり、激しく揺らしたり、衝撃を加えたりしないでください。 故障の原因になります。
- 使用時には引き出しが飛び出します。体にあたらないよう十分注意してください。 ケガをする恐れがあります。
- □ 引き出しを閉める時には、指や手を挟まなれないように、十分注意してください。 ケガをする恐れがあります。
- コネクタの抜き差しは、コネクタ部を持って行い、ケーブルを持って行わないでください。 断線などの故障の原因になります。
- □ 指定されている目的以外の使用をしないでください。

🛇 注記:

汚れを落とす場合は、乾いた柔らかい布でふき取って下さい。汚れが取れない場合は、水または中性洗剤を少量含ませ、ふき取って下さい。
 ・シンナー、ベンジンなどの揮発性の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。

DM-Z400/DM-Z460

概要

本製品は、SASPORTやTMプリンタに接続して使用するキャッシュドロワです。キャッシュドロワ のモジュラーコネクタを SASPORT に接続することにより、引き出しのオープンをソフトフェアで 行うことができます。 また、本製品の前面についているキーで、引き出しのロック/アンロック/オープンを行うことが できます。

■ DM-Z400/DM-Z460 には以下の特長があります。

DM-Z460 の場合は、キャッシュドロワ内に、SASPORT の電源ユニットを収納し、設置スペースを 節約することができます。

各キャッシュドロワの電源ユニット収納の可否および、収納できる電源ユニットは以下の通りです。 DM-Z400:電源ユニット収納不可

DM-Z460: IM-4XX 用電源ユニット(M56PA) 収納可

梱包内容

梱包内容を確認してください。



1.	「本製品をお使いいただくために」 1			
		安全上の注意について、記載しています。		
2.	保証書	弊社の保証書です。	1枚	
3.	+-	引き出しの開閉時に使用します。	2個	

ケーブルの接続

■操作手順-

- **1** 接続する前に接続する SASPORT、POS プリンタおよびキャッシュドロワの電源がオフに なっていることを確認します。
- **2** キャッシュドロワのケーブルを、SASPORTやPOSプリンタのDKコネクタに接続します。

使用方法

■ キーのポジション



■ キーの操作

前面にあるキーロックで、鍵をかけたり、手動で引き出しを開けることができます。 鍵を水平状態にして抜くと、キーがロックされた状態になり、引き出しを開けることができません。



鍵を垂直状態にすると、キーロックが外れます。キーを垂直状態から時計回りに回すと、引き出し を手動で開けることができます。



🕲 注記:

ソフトウェアで引き出しを開ける場合は、キーをアンロック状態にしてください。

■ 引き出しをソフトウェアで開ける

引き出しは、SASPORTやPOSプリンタ(TMシリーズ)からの命令によって、開けることができます。

/ 注意

使用時には引き出しが開放されます、体にあたらないよう十分注意してください。

🕲 注記:

キーはアンロック状態にしてください。

設定条件

電源	モジュラージャック	4 番ピン	DC+24V
動作電流	1A 以下		
動作信号	モジュラージャック	2番ピン	
動作時間	50 ~ 500msec 間、C	N 状態を保	っこと

注意

500msec を越える通電はしないでください。機能不良となることがあります。また、動 作後、次の動作まで1秒以上の間隔をあけてください。

■ 引き出しを閉める

引き出しは手で押して閉めます。

注意

引き出しを閉める時には、指や手を挟まないように、十分注意してください。ケガをする 恐れがあります。

仕様

項目	仕様
電圧	$DC+24 \pm 3V$
電流	1A 以下
ソレノイド通電時間	50 ~ 500msec *1
引き出し	紙幣ケース 4個/硬貨ケース 6個(DM-Z400)
	紙幣ケース 4 個/硬貨ケース 6 個(DM-Z460)
ドロワ開閉方式	ドロワフロントロック(ソレノイドオープン方式)
コネクタ・ケーブル	モジュラー 6 ピン (テレフォンジャック)・1.5m 平ケーブル
ドロワ開閉耐久回数	50 万回
外形寸法	405(幅)× 423(奥行)× 98(高)mm(DM-Z400) 440(幅)× 520(奥行)× 103(高)mm(DM-Z460)
重量	約 7.5kg(DM-Z400) 約 8kg(DM-Z460)

*1 500msec を越える通電はしないでください。動作後、次の動作まで1秒以上の間隔をあけてください。

SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

■ 引き出し寸法

DM-Z400



DM-Z460



SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書
第6章 ケーブル

ケーブルを安全にお使いいただくために設置・ご使用の際には以下の注意事項を守ってください。

⚠ 注意:

- 製品を水などで濡らさないでください。
 故障の原因になります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。 故障の原因になります。
- □ ケーブルを強く曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。 ケーブルの断線、被膜破れが発生し、故障の原因になります。
- □ コネクタの抜き差しは、システムの電源をオフにしてから行ってください。
- コネクタの抜き差しは、コネクタ部を持って行い、ケーブルを持って行わないでください。 ケーブルを引っ張ると、断線など故障の原因になります。
- コネクタ部のピンは、指で触るなどして汚したり、短絡させたりしないでください。 故障の原因になります。
- □ ケーブルを落としたり、ぶつけたりして強い振動や、衝撃を加えないでください。 故障の原因になります。
- □ ケーブルの修理、分解・改造はしないでください。 ケガや故障の原因になります。
- □ コネクタは指定製品以外に差し込まないでください。 誤った配線をすると故障の原因になります。
- □ 指定されている目的以外の使用をしないでください。

✎ 注記:

汚れを落とす場合は、乾いた柔らかい布でふき取って下さい。汚れが取れない場合は、水または中性洗剤を少量含ませ、ふき取って下さい。 シンナー、ベンジンなどの揮発性の有機溶剤は、絶対に使用しないでください。

DM-A100

概要

DM-A100は、SASPORTのキーボード・マウスコネクタに、マウスとキーボードの両方を接続可能にするケーブルです。

ケーブルの接続

■操作手順-

- 1 接続する前に接続する SASPORT、POS プリンタおよびキャッシュドロアの電源がオフになっていることを確認します。
- **2** 下図のようにケーブルと SASPORT 及びキーボード・マウスを接続します。



ケーブルの結線

DM-A100の結線は以下のとおりです(記載されていない信号は未接続。)



DM-A400

概要

DM-A400 は、JIS キーボードの PS/2 コネクタを、POS キーボードの AT コネクタに変換するケー ブルです。

ケーブルの接続

■操作手順-

1 接続する前に接続する SASPORT、POS プリンタおよびキャッシュドロアの電源がオフになっていることを確認します。

2 下図のように接続します。



ケーブルの結線

DM-A400の結線は以下のとおりです(記載されていない信号は未接続。)



OI-C01

概要

OI-C01 は、SASPORT と、RS-232C インターフェース仕様の TM プリンタを接続するためのケー ブルです。

ケーブルの接続

■操作手順--

- **1** 接続する前に接続する SASPORT、POS プリンタおよびキャッシュドロアの電源がオフに なっていることを確認します。
- 2 下図のように接続します。



ケーブルの結線

OI-C01の結線は以下のとおりです(記載されていない信号は未接続。)



SASPORT 周辺機器詳細取扱説明書

EPSON SEIKO EPSON CORPORATION

Printed in Japan